

清俗紀聞

第六

數帙

卷之十二 祭禮

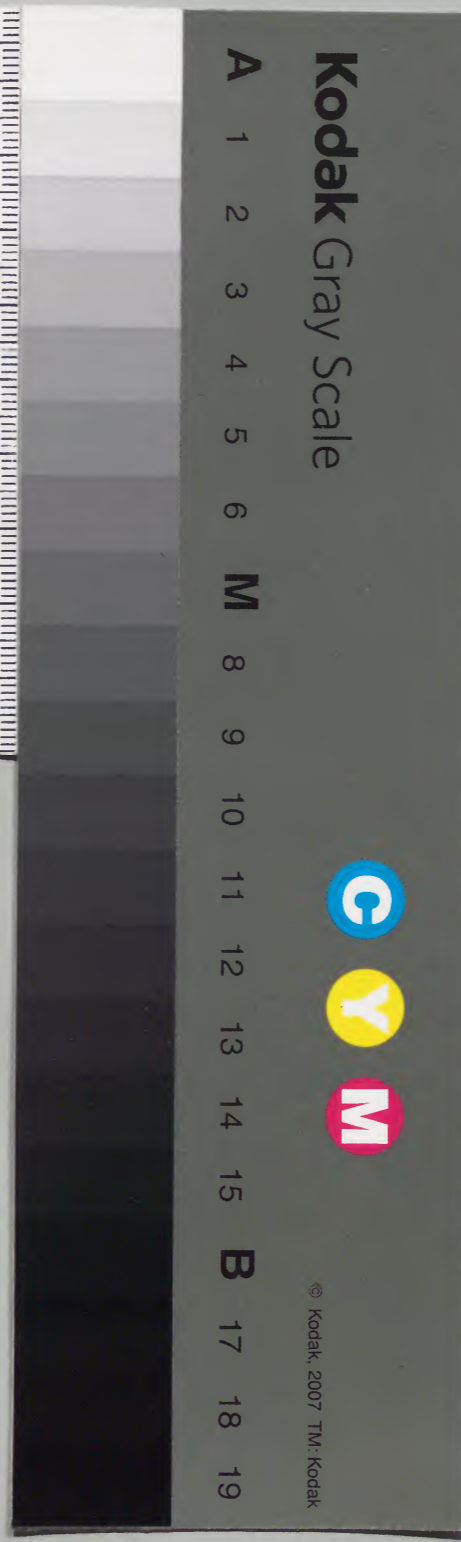
卷之十三 僧徒

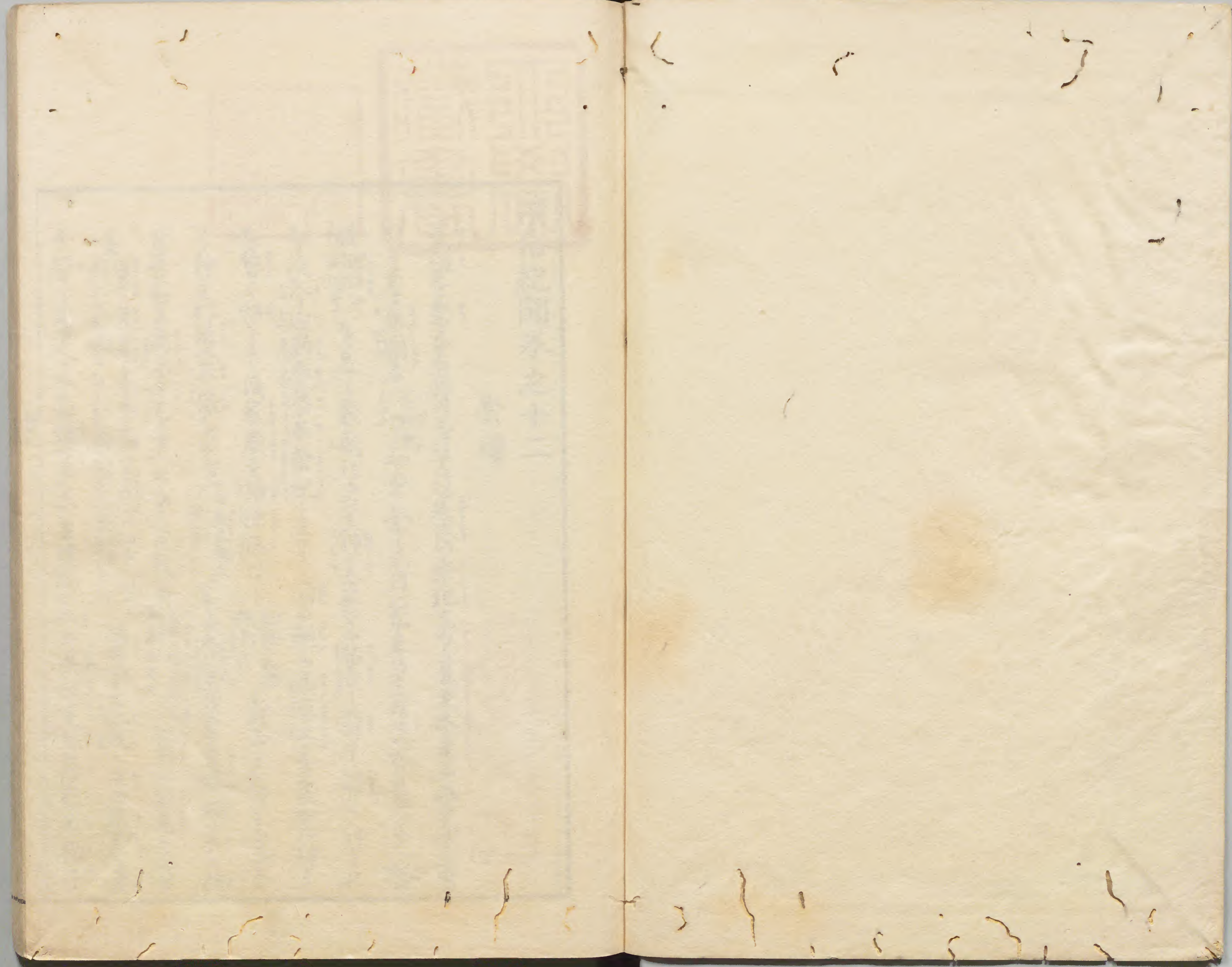
以上六木大尾

和書門類	
一七七九一號	類
一八〇函	架
六册	册

內閣文庫	
一七七九一號	和書類
一八〇函	架
六册	册

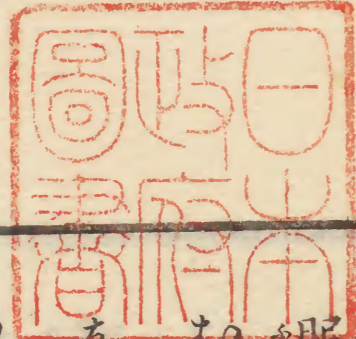
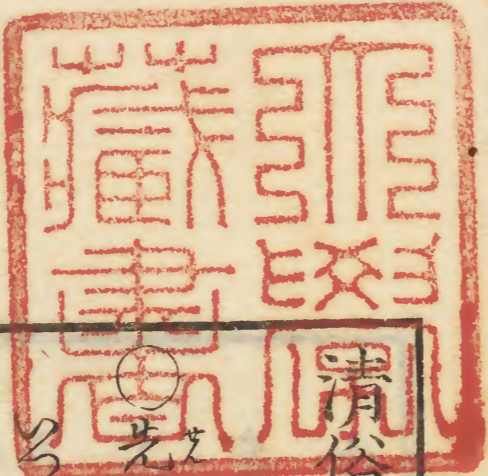
內閣文庫	
番號	和 17791
冊數	6 (6)
函號	184 327





皇朝通志

卷之十二



清俗紀聞卷之十二

祭禮

淺草文庫

先祖を祭ふ正月三月十月定式の祭祀あり夏至冬至小暑大暑を有

りとも家廟キヤウミョウにトコおめて祭る三月の若年の十二月廿九日の以主人盛

服ホク潔キヨク浄ジヨウありカをカ着キて家廟に至り神主のカおめ拈香ニョウキョウ一拜イツパイ一跪イツクワイく神主に

ひヒ今イマ迎新イニシン春シュン恭コン奉ホウ祭祀シと告ツクく廟ミヤウの側ソバみ高卓子カウチヨウソクをカおめ神主

を暫シバシバく移ウツリして後家廟を掃除ソウジ潔淨キヨクジヨウし掃除ソウジのカおめカえのカおとく神主を安ヤス坐マ

し神カミ主ヌシにカ後ノチ真像マニゾウをカおめカ一イツ真容圖マニヨウトウ又マタ行樂圖ギョウガクトウと云

付ツケ其ソノ前マエみ高卓子カウチヨウソクをカす人ヒト大オホ多タる花瓶ハナビンをカおめカ花ハナ瓶ビンをカおめカ香カウ案アン或アル香カウ爐ロ燭ロク臺ダイをカ傍ナド

坐マ造花ゾウハナの牡丹ボタン由ユ限リミ多タ富貴フキを示シ意イ牡丹ボタンの紙シみく製セイ服ホク小コ鉢ハチ花ハナ瓶ビン一イツ生シヨウの草クサ花ハナを多タ

分ワケ挿サシしカ方カタ人ヒト居イ坐マ燈籠トウロウ箆ヘビをカおめ焼物ヤクモノの皿シラみ荔枝リチ枝シ竜リウ眼ガン落花生ラクカシ松マツ子コ

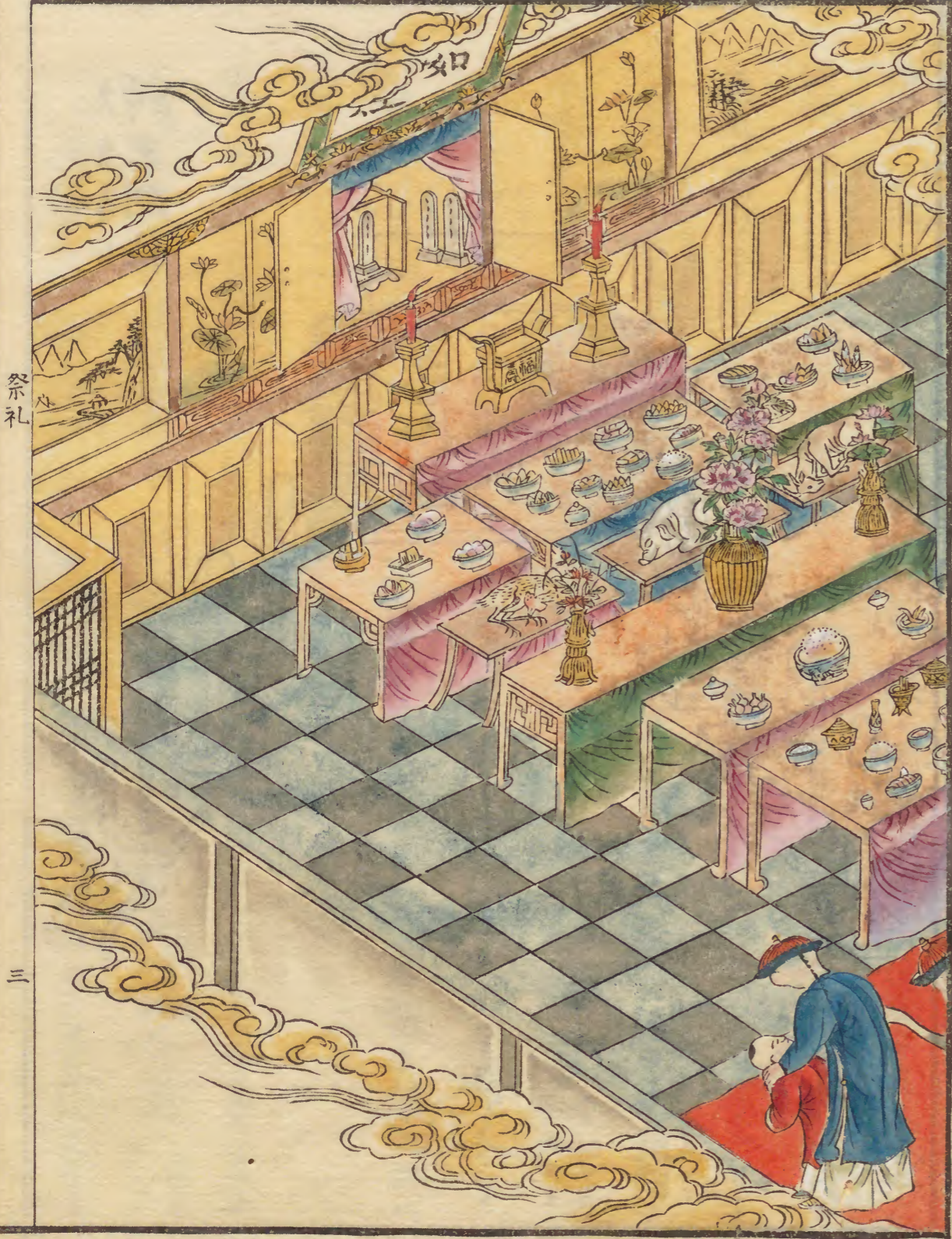
祭禮

東瓜糖桔餅或ハ糕餅菓物種々ありひみ大根みく水仙花菊等依制衣
 一供物都合二三十只備へ至元朝みら主人早辰み沐浴一盛服を忌
 一子孫皆姪を引領て家廟へ至り廟外にて盥洗一燈を照し三牲
 を備へ饌進進す饌ハ魚肉野菜煮物中にて磁器に盛り爵盃美酒を盛主人
 跪く盃を奠し畢ると拈香供養す漢人ハ四拜満人ハ三跪九叩首す主人拜畢畢て嫡子庶
 子伯叔父姪婦女等同居の親族さ々々々拜す廟拜畢畢て家内の祝儀
 を速己の中別以徹饌す廟の卓子徹饌の時も主人子孫茶礼さ々々拈香供養
 さ々徹儀を三牲ありひみ饌の徹す其餘の供物と其儀を叙し
 十八日み多量徹す饌を徹して暮るるみ三牲やらひみ饌の物を煮垂して
 家内残らず食は乞成薦酢とら進饌と元日むりありて二日より
 進饌眞酒等の事あり十五日以上元佳節早辰に主人盛服一



多燭以照一香成拈一眞酒寸三牲供物等々叙し十八日早辰
 主人盛服一子孫を引領して盥洗一拈香礼拜一跪て伸之む以
 恭請徹位と告ぐ諸供物を徹し一廟厨の扉を閉して元の香案
 香爐燭臺を祀り至廟門を閉す

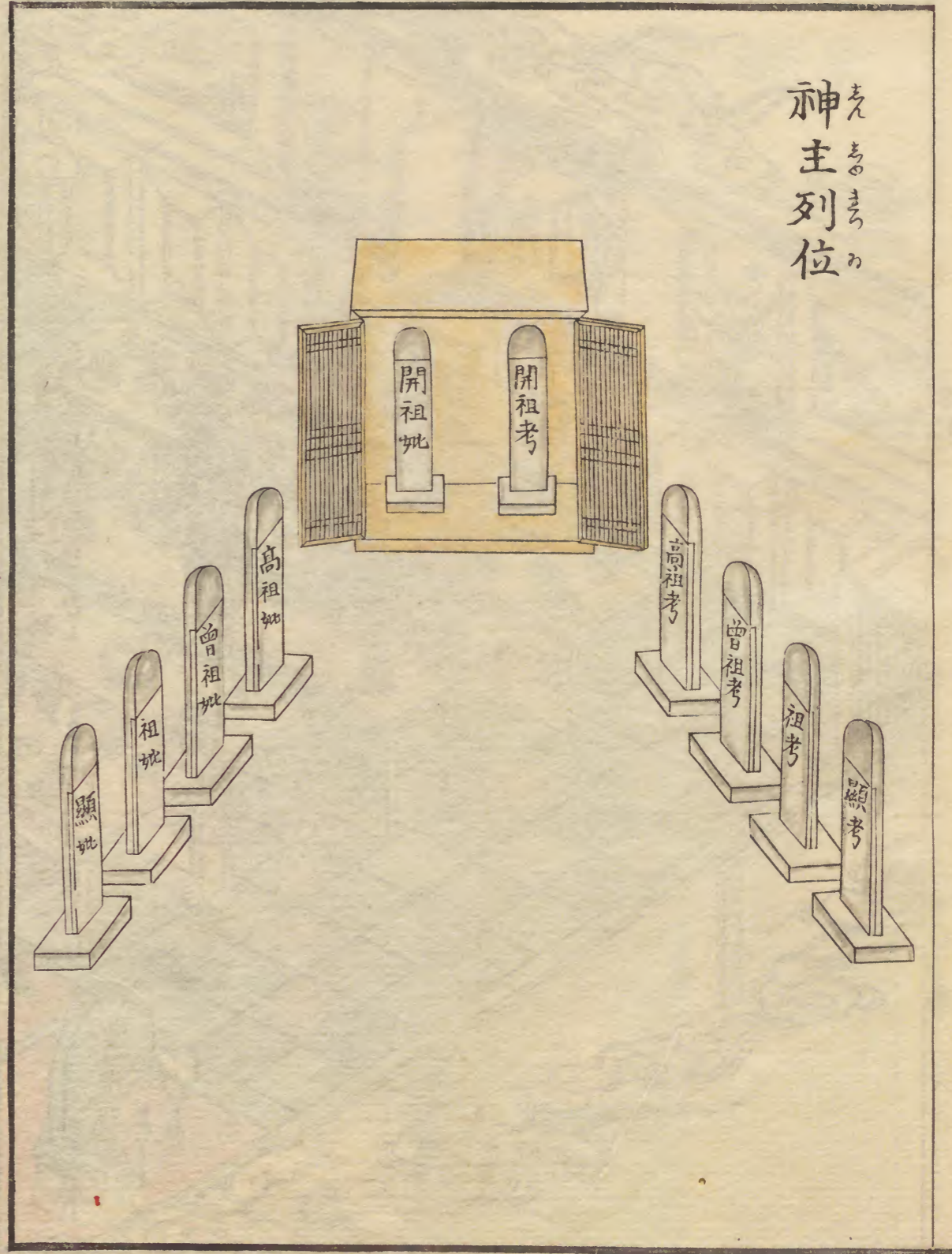
家廟祭祀之圖



祭礼

三

神主列位

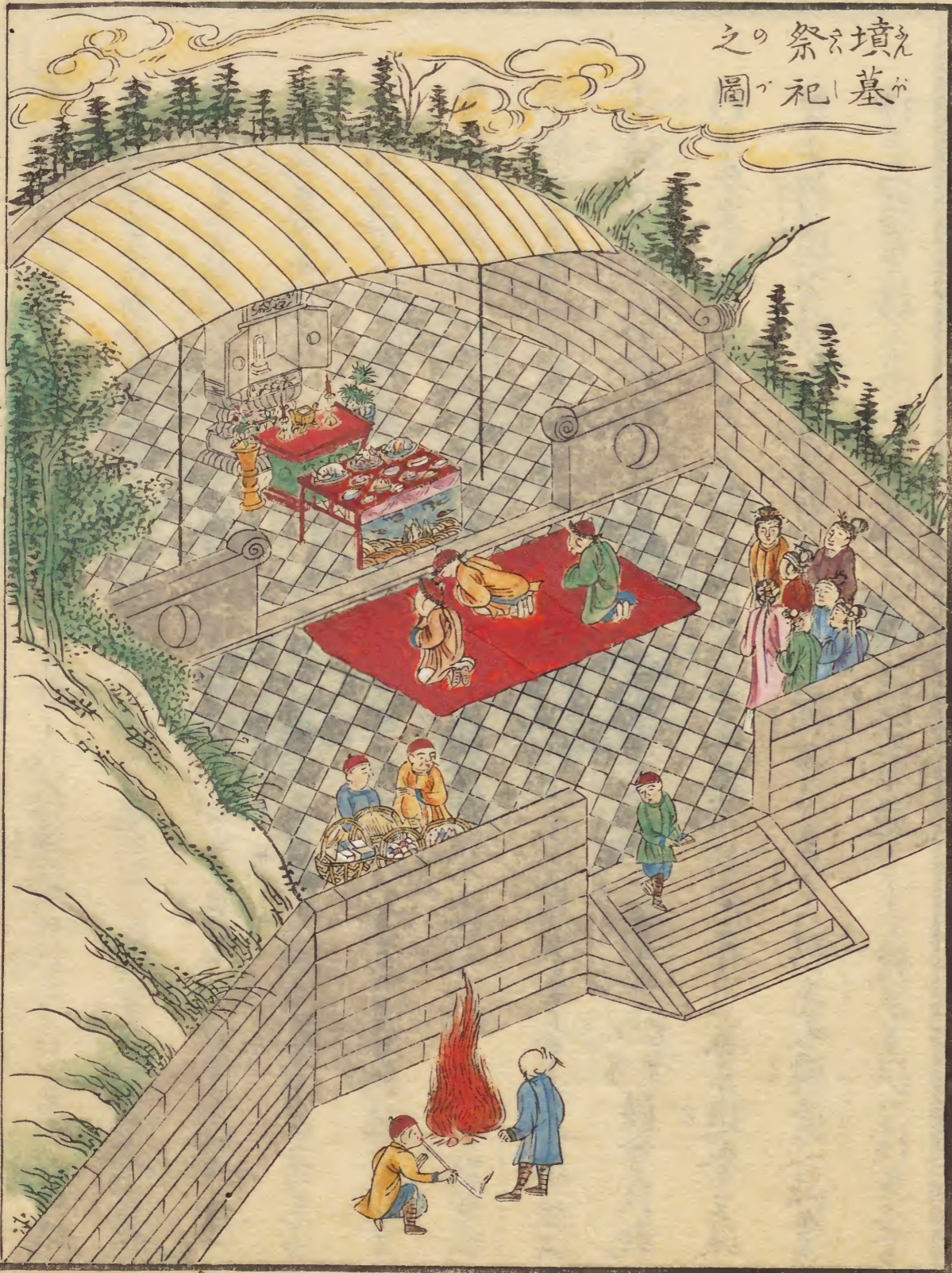


神主ハ正祠シスウ五代の神主を立正祠シスウの上段ニ開祖カイソの神主を正シスウ面シスウニ立五代以上
 の祖ソハ順ス々クに薦ス座サニ先マを薦座スとふ伯叔フクシヤク兄弟ケイテイ父子フシ孫姪ソクシヤク婦女等フメナトウの主ヌシハ正祠シスウ
 立置タテヅク十歳ジュウサイ以下イカドはく死シしむふかち殤ヤウちて王オウを立置タテヅク立置タテヅクは嫡子チクシハ七歳シチサイ以下イカドは王
 を立置タテヅク婦メハ夫ウ在世シカイの内ウチハ正流シスウとくは正祠シスウ主ヌシ代ダイ立置タテヅク不事フシを没ムツ先マ正祠シスウ
 立置タテヅク死シして後ノチ正祠シスウ後ノチ立置タテヅク三月サンゲツハ清明セイメイの節フシ内ウチ吉日キヨジツ日ヒ哉ヤ祭マツル祀マツルの吉日キヨジツ
 立置タテヅクハ祭マツル式シキ正月シツゲツみねかゝり〇七月シチゲツ十五日ジツゴみまのふとわり希スあつて
 八月ハチゲツ九月クニゲツの間マヒ小祭コマツル祀マツル立置タテヅク〇十月ジュウゲツ朔シヤク日ヒみ祭マツル先マを十月ジュウゲツ朝アサとふ也ヤ式シキハ
 正月シツゲツみ同ドウ〇夏ナツ至シ冬フユ至シの祭マツルを式シキ異イ々ク不事フシかゝり
 〇正月シツゲツあつて清明セイメイの節フシ内ウチ吉日キヨジツを立置タテヅク墳墓フンボ改カヘまつ先マを春祭ハルマツルとふ
 祭マツル式シキハ祭マツル日ヒを三牲サンセイあつて糒コ餅ヒヤク菓物カクモノ野菜ヤサイ等トウ此コノ供物クモノを教オシ受ウケ
 供物クモノ清浄セイジヤウみ安排アンバイして箱ハコあつて竹タケ籃ランみ入イレ墓ハカ所トコロ持モチ先マ墓所ハカトコロ大オホ多シヤク

祭マツル式シキハ祭マツル日ヒを三牲サンセイあつて糒コ餅ヒヤク菓物カクモノ野菜ヤサイ等トウ此コノ供物クモノを教オシ受ウケ
 供物クモノ清浄セイジヤウみ安排アンバイして箱ハコあつて竹タケ籃ランみ入イレ墓ハカ所トコロ持モチ先マ墓所ハカトコロ大オホ多シヤク
 祭マツル式シキハ祭マツル日ヒを三牲サンセイあつて糒コ餅ヒヤク菓物カクモノ野菜ヤサイ等トウ此コノ供物クモノを教オシ受ウケ
 供物クモノ清浄セイジヤウみ安排アンバイして箱ハコあつて竹タケ籃ランみ入イレ墓ハカ所トコロ持モチ先マ墓所ハカトコロ大オホ多シヤク
 祭マツル式シキハ祭マツル日ヒを三牲サンセイあつて糒コ餅ヒヤク菓物カクモノ野菜ヤサイ等トウ此コノ供物クモノを教オシ受ウケ
 供物クモノ清浄セイジヤウみ安排アンバイして箱ハコあつて竹タケ籃ランみ入イレ墓ハカ所トコロ持モチ先マ墓所ハカトコロ大オホ多シヤク

祭マツル式シキ

墳墓の祭祀之圖



祭礼

天幕を張 天幕ハ本帛を藍色ヨシ
漆遠キ俗ホ布幔ト云 毛氈毯子を鋪く先祖石碑の茶ぶら卓を成

金香爐燭臺を傍に燭を照し線香を立供物を磁器ホ盛く使主人

あふびみ子孫盥洗して猪はみ酒を盛眞一拈香礼拜寸側み奴僕大金紙

冥衣紙を焼捨ふ 大金紙冥衣紙の類
再ニ圖ハ喪礼部ホ出ル 男子拜早して婦女拜後 此日ハ家内の男
女共ニハ親族

拜早して早時供物を徹し此ハ墓所ホ於テ 黃炊く

食し酒宴をおす祠堂あるもの祠堂あり宴を催す 大ラハ墓所地面の
内ホ祠堂を建祭の

用み使 用ミ使 若親族朋友の内あるもの内賑を繰る祭早して山野景色正色

あふびみ子孫盥洗して猪はみ酒を盛眞一拈香礼拜寸側み奴僕大金紙

あふびみ子孫盥洗して猪はみ酒を盛眞一拈香礼拜寸側み奴僕大金紙

○先祖祭み致齋齋戒等の事かゝらむに庶民の祭文成らむに官
 家御紳等ハ祭文を用也 ○祖父母父母の喪中ハ毎月忌辰ありハ朔
 望神主ハ奠酒拈香して禮拜に毎日拜すハ奉希之葬らぶハせん
 且ハ朔暮ハ拈香ハ拜をハ奠茶奠酒奠菜等あり葬アそのハ
 喪期の内ハ神主成廳堂ハ立置朔望忌辰の拜のハあり喪期満ク神主
 ハ祠堂ハ移してハ父母とハ毎月忌辰の祭祀ハ朔望ハ拈香を
 拈香奠酒して禮拜す本忌辰 日あり とも祭み奉かゝ一旦忌辰ハ
 子孫吃素す奉れハ喪終ア後ハ周年 一周 三周年 三年 法會執
 行ハ祭み此際僧道を請ト追薦モ三年後ハ十年目毎ハ追祭す法
 會ハ僧道を請ト誦經モハ家廟ハ多クハ移ハ又廳堂ハ法會の
 神主一位を移して祭み奉り僧道ハ布施して銀ありハ錢を送る

先を懺資と僧一人一日錢百文或ハ百五十文銀ありハ五分
 二ハ後住持長老等ハ銀十文を修法ハ多クハ燭口等執儀のハ
 三百目五百目身分に應ハ不同あり是ハ供物料多ク其内あり又
 誦經の上齋非時の食事をハ齋を早齋と云非時を晚齋と云
 僧誦經のハ盤木魚を鳴ク此具ハ僧持持系もあり家ハ
 盤木魚の圖式等ハ傍伎 又喪中の法會のハ線香蠟燭
 部ありハ
 持系して賜ふ奉り喪中ハ平常の法會ハ
 誦經ハ大畧普門品金剛經等あり其餘ハ詳み奉り
 ○周年三年十年目毎の法會追祭の式ハ春秋祭祀ハ朔
 望みハ家廟ハ三牲一副魚肉菓子類十種後ハ主人早辰ハ沐
 浴ハ盛服して神主と酒を奠ハ拈香禮拜す

○開祖考妣祖考妣顯考妣及其人の誕生日み廳堂へ真空圖をり
 香三牲魚肉菓子類をとり燭をとり饌を進し眞酒拈香し
 祭式羽望みねし是を眞期といふ真空圖ハ父祖の末別み面像
 形躰を正写みして掛物小仕立永遠遊慕して忘ぬき免祭期
 徳々在りて又五六十歳みありて自身の像をうけ
 ねしあるは我平時得意の像をうけとる人ハ山水城郭の
 景山中あり景物遊覧の躰をうけしありて琴碁書畫を
 ありてをうけし是を行樂圖といひ又真空圖といふ

真空圖



祭礼

○祭器卓碗碟等と多く平時需用の器潔淨なるは用由人ゆする外は他人

ともあり希なり ○家廟の大小廣狭を身が家貫の貧富ゆする等

か寺方位向きの家作の向も意は只此向を嫌ふ廟中平時の掃除點燭ホ

と奴僕經手は掃除等の時廟厨の扉をふさぎしむる事

○主人出入は祖に告ふ事ありからひみ生子は節家廟も見之むる事

か子孫做親中を必告ふ ○中秋重陽冬至の佳節み付く家廟

を祭ふ事れしを家の舊例もより執行せしむる一定あり

○家廟も佛像を安置せし神主ありあり佛像の内廳も厨子を補ひ

安置す ○先祖の遺物の封固して潔淨ある匣み入る收貯し安ん

他み出さず遺物分給の事親族も遠くを遺命あれは送る子孫せして

檀米賜ふ事を得て是親族或は至る親しき朋友等父祖の筆跡等

を所望すは家廟も告ぐ詩文章の類の筆跡を賜ふもあり衣履靴

具等も賜ふ事あり親友を所望する事あり

○水火非常の節は節別家廟も至り神主を残らば取集り櫃箱ホに

收る子孫皆姪附随ひ難を逃し親族朋友より寺院等へ預せし難

静る後廟所恙あり時と移して祭祀を執行は是廟所燒失流

失破損等あり移す事ありは外も假廟を設け安置し臨時に

祭祀を執行す是を厭敬馬祭祀ともいふ取集る時ハ事急あるゆ禮

儀み及むるは急難たりとも家廟を收むる内ハ外あり

○及むる ○虞禫の祭祀し小祥大祥と則周年二年あり

○城隍と古く其地も徳を誦する名官卿賢を城隍神と崇め其地の守護

する諸省府州縣ともみ廟あり知縣以上の官到任して三日同ありは

五日めみそ詣を是を城隍齋宿とふ祭式は前日み禮房官知縣も一部を官吏を
舊例の儀注を中出三牲等の供物を替へ祭文を代り出さる日み本官知縣も一部を官吏を
縣多し知縣知府也 吉服朝服 して禮房官執事人役 執事人役掛印の役人 を引領して城隍廟
み至り門前み馬轎馬車 乗り入り神前み至り禮房官供物をそへ
酒を奠し燭燭燭 奠しそへ本官三跪九叩首の礼をねらみ其地の
安全を祈願し祭文をよみおま焚化を祭文ハ讀祝官よみおま 拜礼畢
して廟祝の宅へつるも兼成飲志飲志 休息して帰館廟祝の其地也
代く廟祝を侍む 朝廷の官よりつる人も不級下の事也 ともも城隍神古來より其地み名賢等あり
所と近縣近府の神狩をうりて安んじ惣じて府内の城隍を知
府み視へ縣内の城隍と知縣み視へ城隍をほりふ城隍神とふ
知列知縣の生民を司ふ官され陽官と呼ぶ城隍ハ陰府を

孤魂を司ふ官と陰官と呼ぶ三月清明の良辰内并七月十五日朔日定式の祭
祀此祭日み城隍神を大橋み茶系とせ郊外席をみ請ひ祈祀孤の高イ
兼く構わぬ廟壇廟壇多し不草昔月の後屋を 遷座せり本官を始め衙門の諸官
御曲の耆老を引領して祭ふたり或は三牲魚肉野菜菓子類多し種
使燭を点し本官拈香礼拝を次み諸官吏耆老等拜する諸官吏の
帰館す其以諸人系詣礼拝は是を祀孤とふ陰間の孤魂の多るみ
祭ふ意あり祭終りて其日の申れ刻以廟へ歸り奉る廟めての祭を
到任齋宿朔望中秋を至ると外とあり中秋を至り三牲供物を使
朔望み三牲を使は此祭より官人系詣をみ奉る廟祝と供物
を使は祭ふ官み預る祭ふ清明七月十月の三祭也遷座の良行列の次が
と先に奉旨祭祀次み城隍使司と金字書て書る行牌を一對宛建て



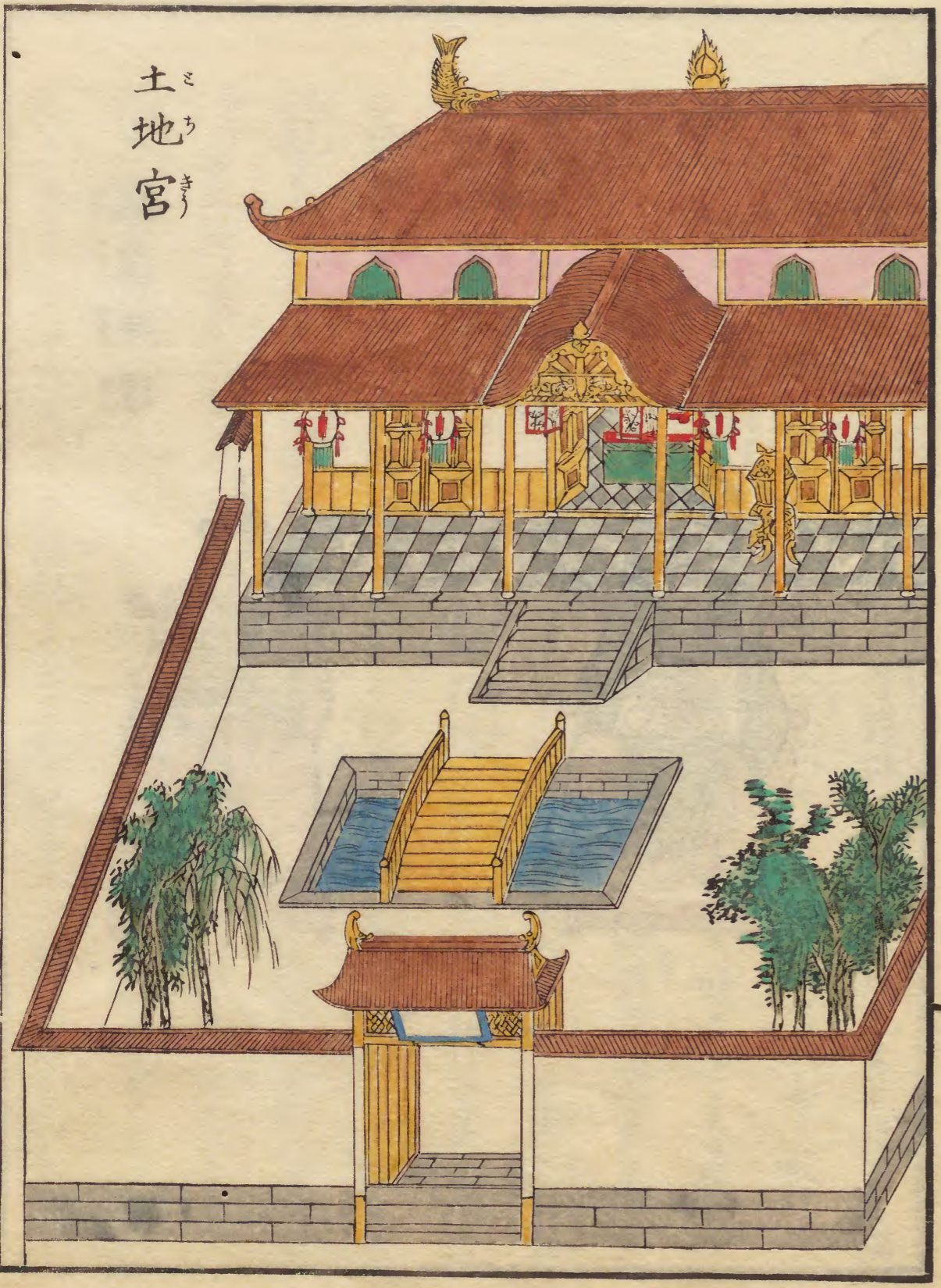
請城隍神郊祀

祭礼

上



土地宮



祭礼

土

執事旗鼓涼傘あり道すら音楽を奏し
奏すはもとより庶人智事能守 右三
 度の祭祀ありびみ廟竹葉分の供物科香燭科たゞ祝官の俸米等
其地の物成み之開銷す城隍の像は木あり刻て手足は目傾運動は花
 推府別縣の官銜品級も随ひて衣冠を刷ひ壺中みは泥塑の像も
唯神を成之銘をり書すまじり都て神像あり
 ○土地宮土地宮と稱し土地の守神あり郷里村落とも土地神祠
多たなりありず大なり自家地面の内中を土神祠を造修し安坐は廟宇土地
の大小よりして不同あり二月二日聖誕生日りて祭祀す
神降何と云 廟内三牲供物
度洋あり
 種々香燭をとり祠官眞酒礼拜し祭る諸人系諸男女群集守朝廷の
の致祭一邇る故官も此の事あり 祠官俸米等の度もり祭祀香燭等乃
科は諸人喜捨して祭るし一年分の供科祠官の過活等不足あり

城隍神像



土公神像



○

天后聖母

天姥と云又娘々とも俗に媽祖娘々とも

専海上の守護神也宋朝建隆元年三月廿三日福

建興化府湄洲

みく誕生あり父と林氏宋朝み仕て刺史の官にあり致仕して

後天后誕生あり天后幼少より智慧賢徳人み起十六歳の特道士より道を授

了修行

二十八年の年九月重陽白晝に神と化し湄洲の高山より昇天

して世々神靈感應著し信仰祈誓するに應せざるまじし代々の帝王封贈

の勅あり

康熙廿二年みありて天后封贈し春秋祭祀免許の旨あり湄州

と聖誕の地あり大なる廟祠を造営し神を安んじ其外京師及び諸省府

別縣

亦み廟あり廟門前に下馬牌を建

祭記の式ハ大年

承を

其外種々供物を供へ玉帛香燭を奠し

祭記の式ハ大年

執事人員を支配して

同り朝廷を禮部官の内兼祭官よりて勅命

祭文香帛を捧欽差して湄洲みあり祭祀ある京師の廟もたれり

祭文香帛を捧欽差して

湄洲みあり祭祀ある京師の廟もたれり

祭文香帛を捧欽差して

祭文香帛を捧欽差して

湄洲みあり祭祀ある京師の廟もたれり

祭文香帛を捧欽差して

祭文香帛を捧欽差して

湄洲みあり祭祀ある京師の廟もたれり

祭文香帛を捧欽差して

祭文香帛を捧欽差して

湄洲みあり祭祀ある京師の廟もたれり

祭文香帛を捧欽差して

天宮后廟



祭礼

十四



天后聖母像



欽差を立ち出祭らし天子も急派するは天子を敬三跪九叩諸省府州縣の廟首の礼を行ひます

其地の本官より禮房官(命)祭祀の事を司りし祭日の本官并諸官人

系籍出官人系籍早く諸人男女系籍群集也公府勿縣亦大宰をりし

祭る神前の供物穀十程香花燭餅明也祭日二月廿二日如誕日の祭祀春

秋二季の二月八月の上亥日を用也兼祭官等系籍の次第の前日諸執事人員

齋戒して高日早辰沐浴吉服して廟にお祈り祝燭を点し香を拵り早くて

長官(諸官の)尚中共餘諸官執事列班す並居贊禮官亦方三跪九叩首起坐の式を唱

ふに値ひ諸官礼を行ひ讀祝官祭文を讀み替はす祭文八時小諸官拜早て退散す

を其地の保甲(命)して諸人の口角争闘云れを極しむ祭日ハ豪家欲田民を施主として

做戲を催し廟外の廣花場(或)戲臺を設け做戲を献す系籍の諸人看戲もて

昼夜開動寸祭祀科香燭科廟祝俸米等其地の開銷みまき工部(由)也

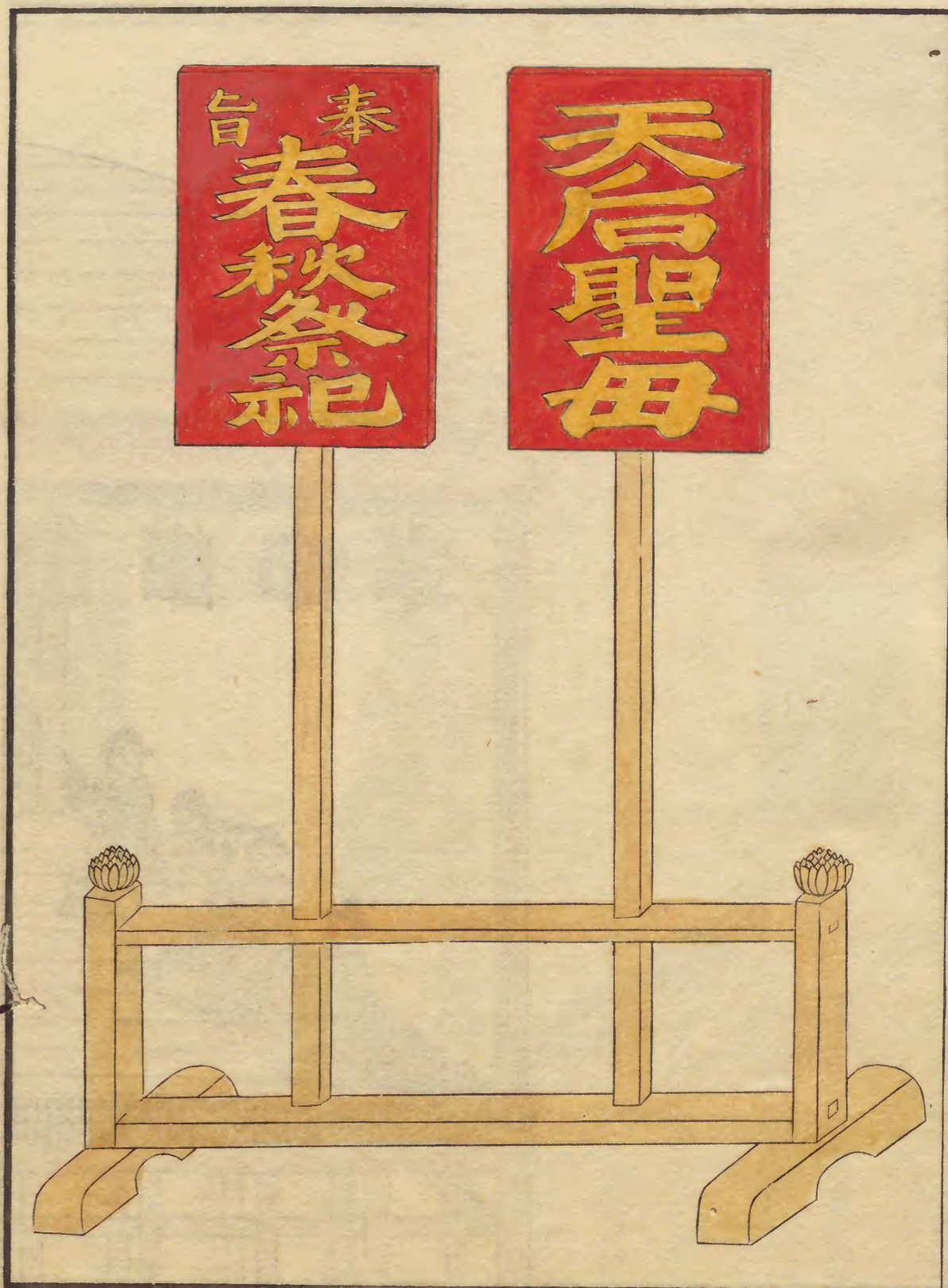
戲き
臺たい



祭礼

十六





○關帝クワンタイ

關聖帝君之關老爺
關菩薩ともあり

武運の守護神として感應感垂著し軍事を以て祈禱して

愈せらるるゆへ武官の勿論に外官民信仰す故他の神も起諸省府州縣に廟を建安

至す武廟と唱へ御里村落の處へともたて侍せしは雍正年中に臺灣の械徒起りて

靈驗ありて速に平靖せし故靈佑大帝と加封す春秋祭祀免許也廟門外に下馬牌を立

大宰を以て祭事祭日五月十二日歸天薨去の日を定祭日とす春秋二系二月八月上戊

日を用官祭事して諸人參詣す男女を禁せしむ做戯を獻すかまは祭式祭科も六開

銷の素スサは天后廟テウテウも同ドウ○天后廟テウテウ關廟クワンテウは靈籤リンセンと云物モノをツツ一ツツ籤ツツ本ホン或ハ竹タケを以て札

をツツ代ツツりツツ九ツツ百ツツ枚ツツ一ツツ百ツツとツツ書ツツまツツりツツてツツ箱ツツ入ツツりツツ收ツツすツツ人ツツ乞ツツをツツ振ツツ出ツツすツツてツツ吉ツツ凶ツツ禍ツツ福ツツをツツ示ツツす

別ツツれツツ其ツツ書ツツまツツのツツ所ツツれツツ吉ツツ凶ツツ禍ツツ福ツツをツツ示ツツすツツたツツ分ツツ神ツツ陀ツツをツツ詩ツツ句ツツをツツ綴ツツりツツてツツ書ツツ記ツツしツツたツツ分ツツ板

をツツ乞ツツをツツ籤ツツ訣ツツ牌ツツとツツ分ツツ籤ツツをツツ振ツツ出ツツすツツ書ツツまツツをツツ認ツツりツツ籤ツツ訣ツツ牌ツツのツツ書ツツまツツのツツ一ツツ行ツツもツツ比

へツツ合ツツするツツ吉ツツ凶ツツ禍ツツ福ツツのツツ意ツツをツツ知ツツるツツ事ツツなり

關聖帝像

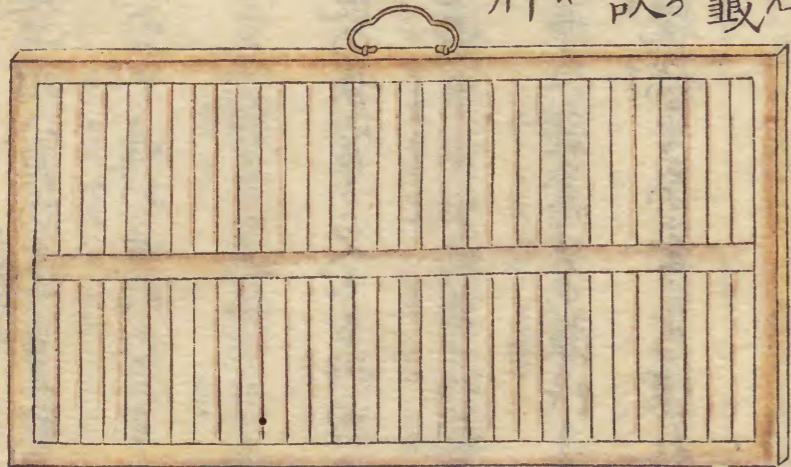


關聖廟

祭礼

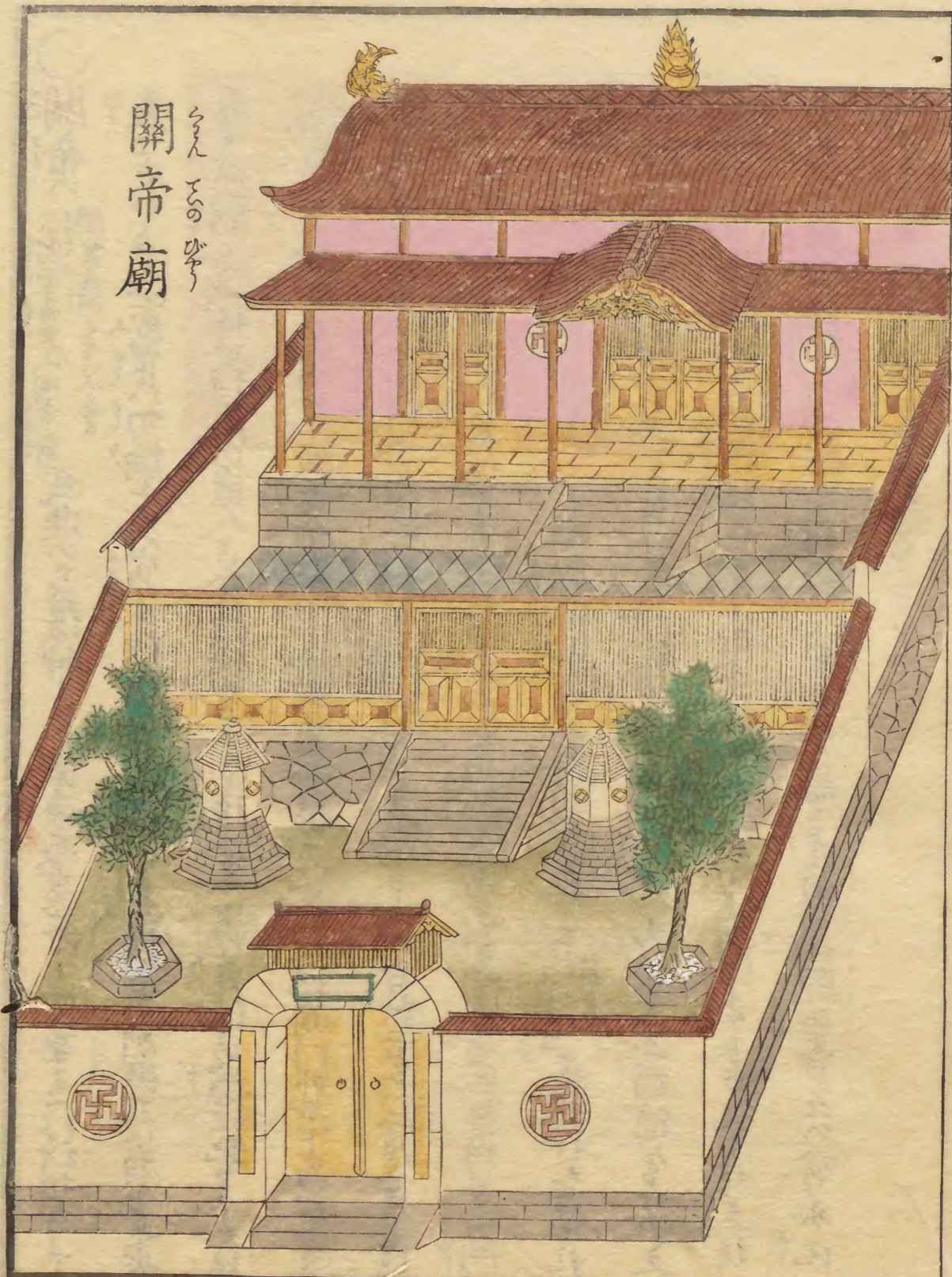
籤訣牌

靈籤



六

關帝廟



○孔廟一ノ丈系師系師并并諸省諸省府州縣府州縣亦亦廟廟を建建二月八月の上丁日上丁日祭祭奠奠の祭祀祭祀あり廟門廟門下馬牌下馬牌を建建官員官員其外其外庶人庶人ありて通通行行せざる事事なり系師系師の廟廟欽差欽差を命命じ致祭致祭あり天子天子系系拜拜し其地其地の官官府府預預配配して司司祭祭の節節天子天子の外外其地其地の長官長官之之も丹墀丹墀の上上丹丹墀墀の下下にに拜拜し蓋蓋蓋蓋豆豆沼沼泚泚の草草蘋蘋蕪蕪の毛鼓毛鼓樂樂初獻初獻亞獻亞獻終獻終獻等等の半半祭酒祭酒先生先生并并諸秀才諸秀才の輩輩は之之を三跪三跪九叩九叩首等首等の禮式禮式あり之之も庶人庶人亦亦窺探窺探する事事を得得れば詳詳知知事事あり之之もも文廟文廟の圖圖同同學學部部にに存存す

清俗紀聞卷之十二

清俗紀聞卷之十三

僧徒

○唐山唐山禪宗禪宗律宗律宗天台天台宗宗ありあり比比米米道道家家なり律宗律宗天台天台宗宗之之至至少少一一総総して僧侶僧侶の天子天子ととるるありあり之之れれが絶絶て朝廷朝廷に出出る事事ありあり信信之之文武文武官官めめららての格式格式とともも好好くく官官とと領地領地等等院院行行ありあり事事もも好好くく官官とと田田地地等等寄附寄附の事事ありあり稀稀なりなり古今古今の知識知識又又任持任持めめ官官はは格別格別法法位位仰仰の僧僧ありあり居居合合せせる時時とと承遠承遠承白承白華華の助助とと田園田園等等寄附寄附せせる事事ありありととままりり大伽藍大伽藍一山一山めめ付付く山田山田地地等等ありあり其外其外檀越檀越の官官人人富家富家豪民豪民之之喜捨喜捨とと金銀金銀ありあり比比米米田畑田畑菜園菜園等等送送る事事ありありバツバツノノ屋屋大伽藍大伽藍衆衆多多れれ僧僧とともも事事足足ららずず寺院寺院の境界境界ありあり石石めめくく造造るる榜示榜示ありあり自是自是東西南北東西南北某寺某寺境界境界

僧徒

や去記して之を記し奉山末寺等の制あり大寺あり不の地を成山号に付る
寺成を寺と云碑之は普陀山觀音寺の奉山あり其山中あり不の寺の末寺也
一山の諸尊と其奉寺に預るふあり大寺の住持の外首座都寺監寺典座知
客副寺等其重きき役僧ありを老僧ありは世事を味み又は病身等
みき勤めたる僧を銀子成納免勤免免
遍ふもあり首座都寺以下は役僧と寺法ありは各名目ありは寺内より
の品級あり此方僧正檀林ありは官位且紅衣紫衣觸頭獨攬此
格式ともれ一隨從と官人のぶは奉ふ一車轎形に格式ありは奉ふ
あくくくく歩けり老僧ありは病身あり遠行はどのの轎あり奉ふ
歩行の時と侍者一二人の外僕を連ふ事も稀あり寺中役僧と時々習代
まき勤めたる僧見多住持と云は圖して昇降成あり且僧隨身の品如意拂

子禪杖鉄鉢にかたふ僧の奴僕とてかたふ奉り

寺院の構営は大門二の門天王殿奉堂禪堂開山堂鐘樓鼓樓齋堂
浴室方丈客殿後寮厨下等あり都く一堂宛別楹あり建を後寮齋堂浴
室等の一楹の内あり仕切あり且梁間等決定あり大門外へ不許葦
酒入山門と記しは石牌を立並奉定法あり大門あり何く禪寺とら
額成あり奉堂あり大雄寶殿と書る額成あり其外殊額等文字あり
定法あり勅額給賜の寺二の門或は奉堂の内あり打並六門あり勅額あり
奉堂あり下馬牌等あり奉堂あり大門左右あり金剛二の門左右あり後あり四天
王の面あり彌勒菩薩正面の後あり韋駄天尊を安置する堂の奉堂あり釋迦
兩側あり羅漢を安置する堂の前あり皇帝萬歲萬萬歲と書るあり牌を
立並奉是を龍牌と云此龍牌の寺院毎あり奉堂定法あり官あり屆也

僧徒

多く別み朝廷より免許とふ事ありては寺法めく並事なるに依り
 龍牌の供料とて朝廷より寄附給賜等此事あり
 天子皇后より龍牌(上使等)奉指の事あり天子位牌紳主等立
 並みありて其(石)の官人年頭みまじり寺院へ奉詣り此龍牌を拜せ
 たり朝廷へ拜賀すふ意あり
 天下の寺院を統領するは禮部の官なり諸筋等(其)未だ知縣中
 渡り知縣より寺院へ達し僧侶の諸願するに破戒不如法の僧尼方等此事知
 縣中(止)ば知縣めく裁判し輕重事(知)縣切めく執り以て重事(止)ば上
 司(中)達し禮部(伺)ひの上(取)り多し一山限(寺)法の通執行(衣)の控
 あり形(止)ば詳め奉事能らば度牒(寺)院の任持(止)ば知縣(頭)出(止)ば
 聞(止)ば上(止)ば知縣(衙)門(止)ばわく渡(止)ば(兼)く五枚十枚(免)頭(請)並(剃)度の



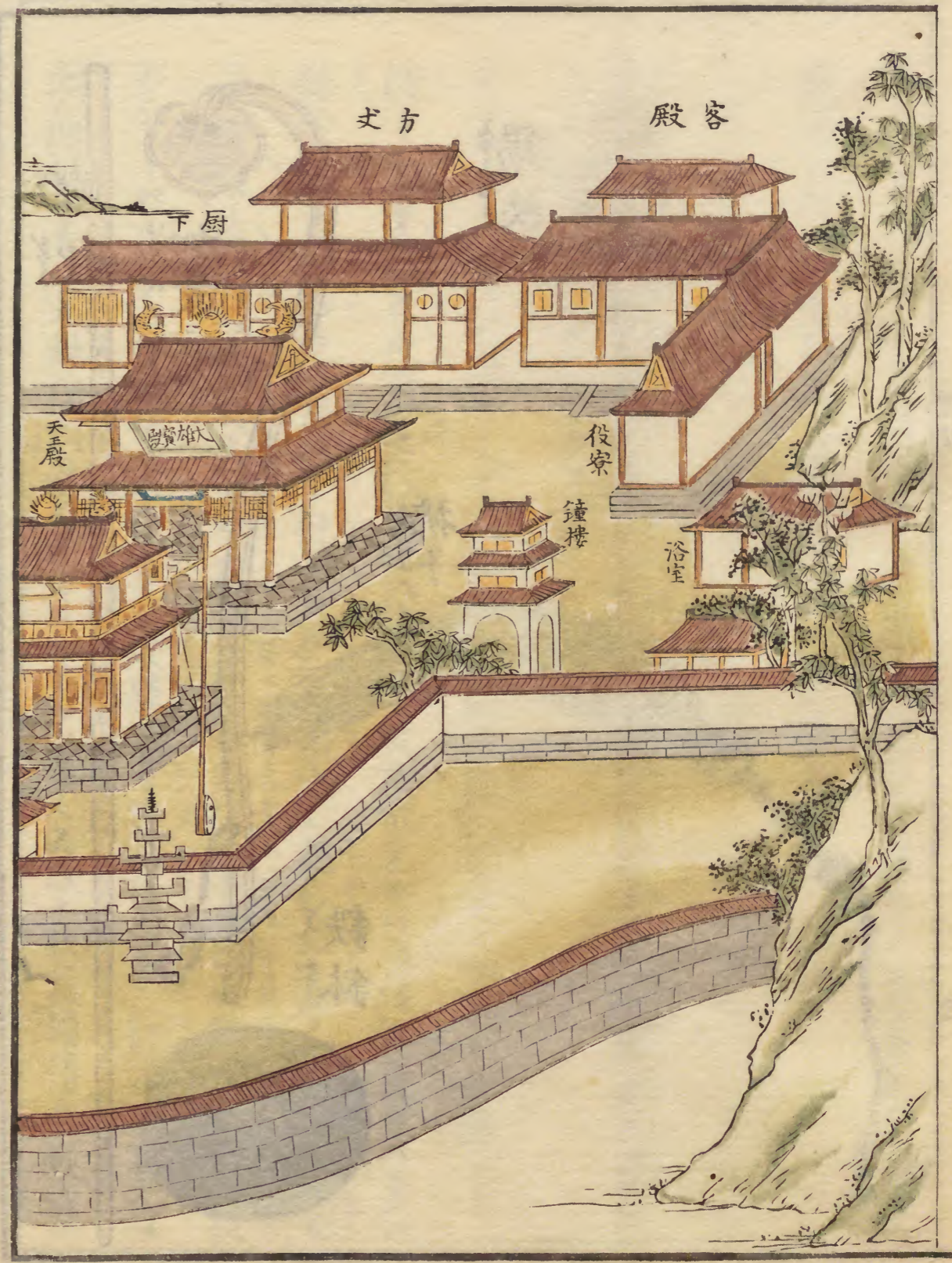
僧徒

三



僧徒

四



龍牌



山門外石牌

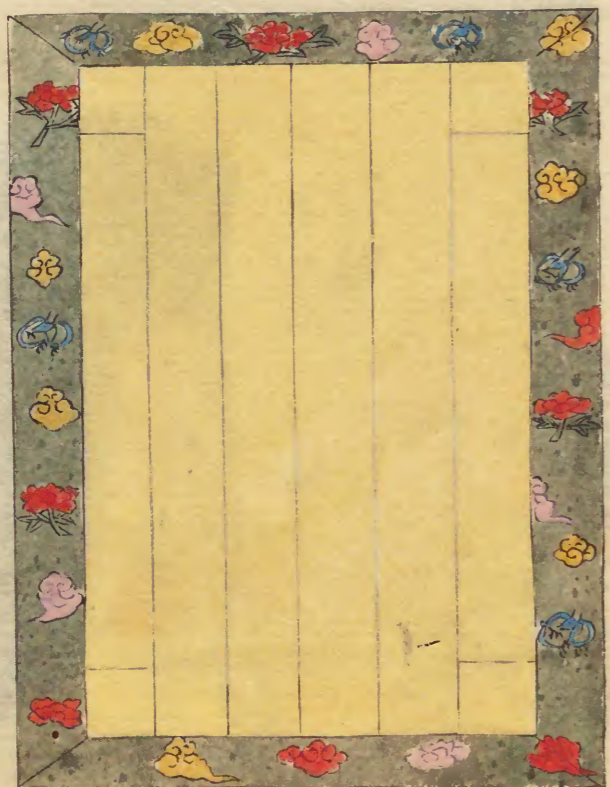
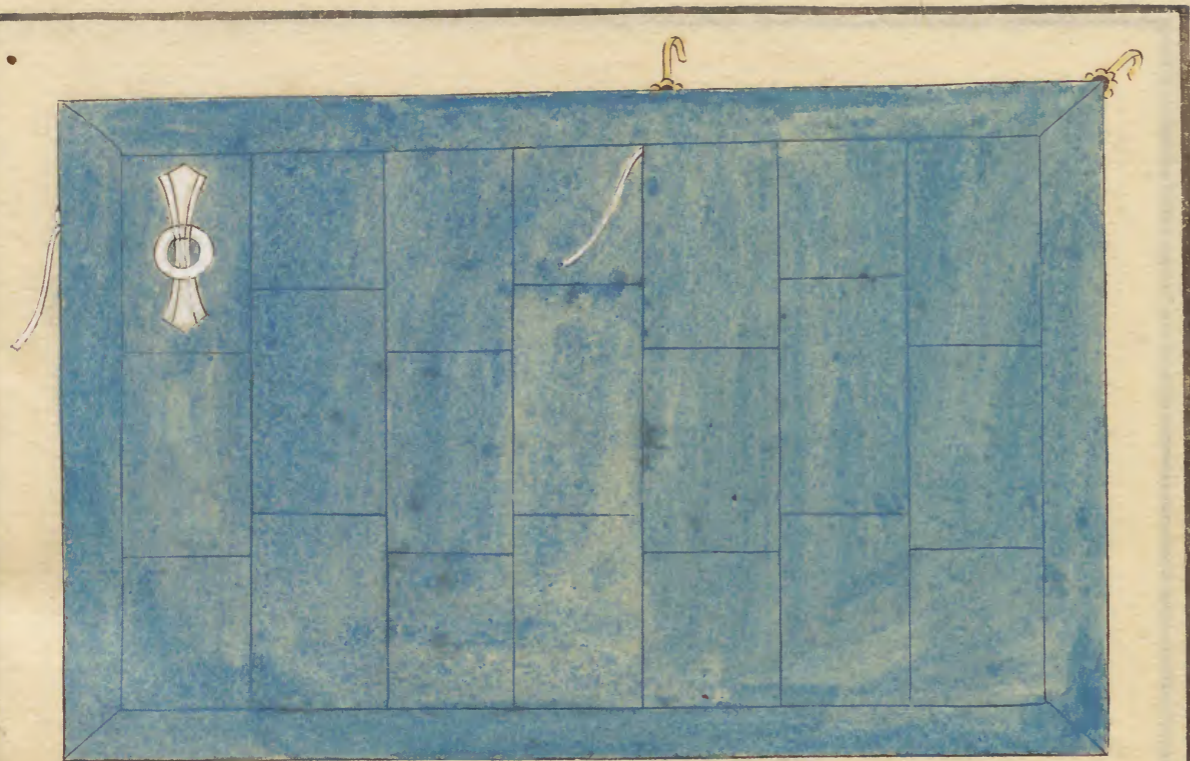
不許葷酒入山門

高廿六七尺廣二尺二寸

僧あふたの師の僧たる任持し願出と請ふまじと度牒年分の定数ありび
 剃度の人定数等あり一旦僧死をまじり度牒を其存寺へ返納し存寺より
 度返を事なく存寺に田をまじり剃度の僧あふた名を成切之遊す
 れり度牒れ式を官府ありび僧家のと取扱ふまじり兼て見及まじり事
 ありんかまじり事ありんか ○僧家の田地を都て僧に支配ありんか民ハ糸
 の支配寺の寺院の田園を民間へ貸耕化せり年貢を収むる年貢未進
 不納等ありんか懸へ願出裁判ありんか菜園ありんか吏を雇ひ行化せりむ
 新法邪教ありんか寺中ありんか兵器及物を並事へ判禁れまじり寺院を標
 識建まじりありんか寺院の敷を官書留ありんかありんか建まじり
 ありんか其地の懸懸ありんか八國海の造官ありんか
 禪宗と法衣袈裟衣を著しありんか 袈裟衣錦縹綿紗綾の類法衣ありんか

僧徒

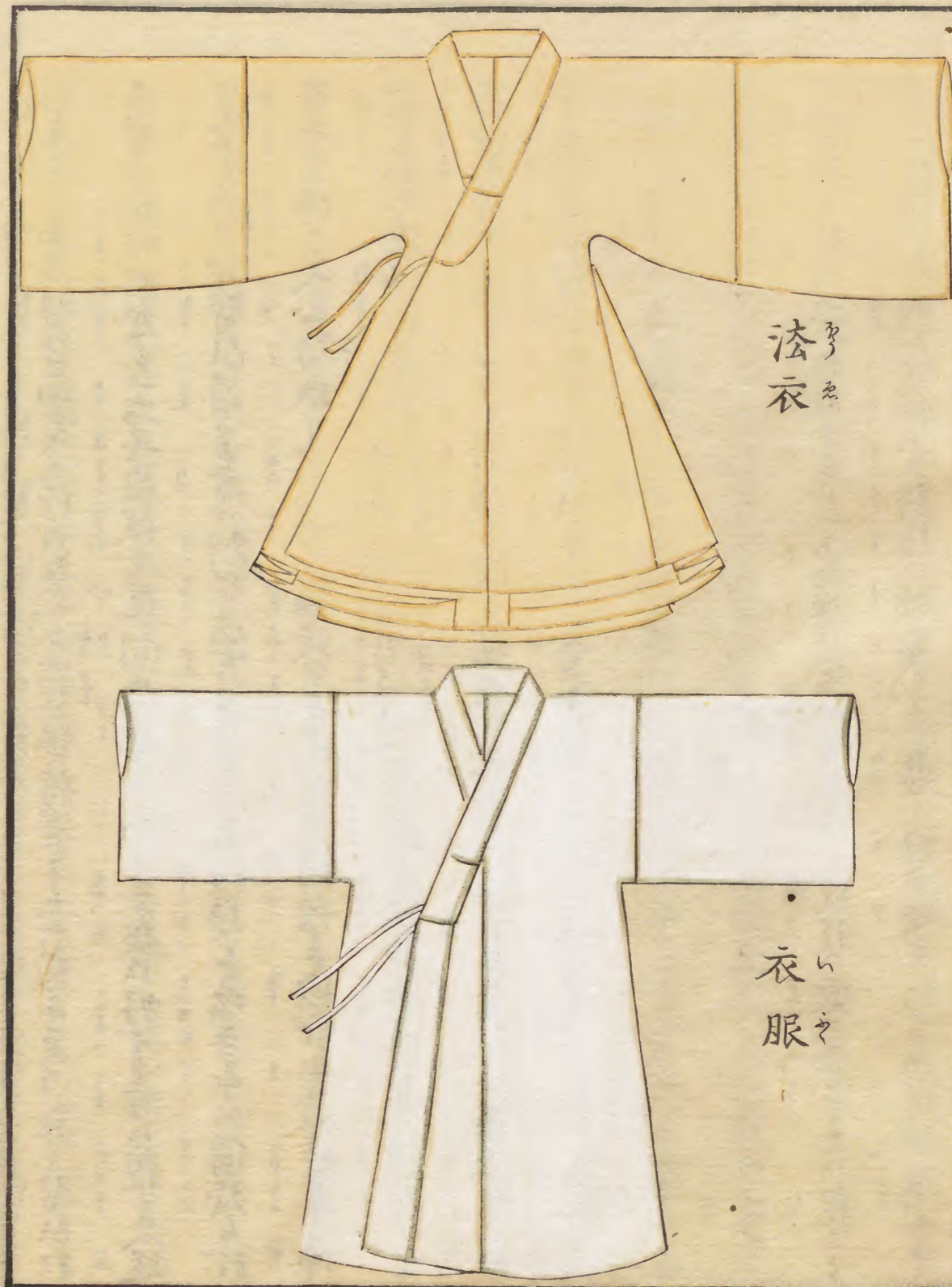
僧徒



袈裟けさ

座具ざぐ

七



法衣ほっぺ

衣服いふく

總角そうかく



帽子ぼうし



横よこ



前面まへおもて

詰公巾つめこうきん



僧鞋そうげ



白絲しろいと

紅緞子べにだんす

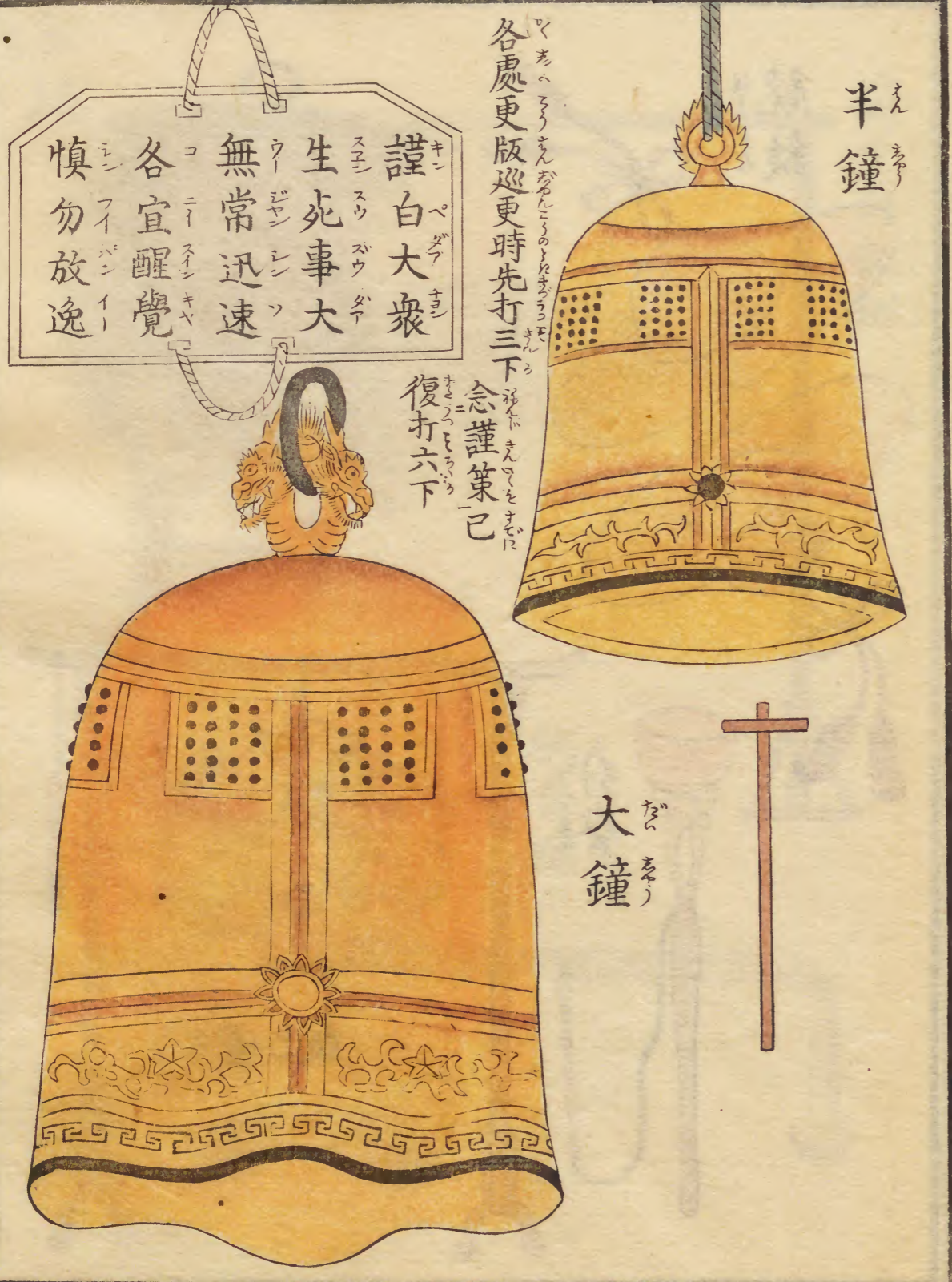
小沙彌



座禪回香佛經等の勤學を多しむ年若の内々小沙彌小沙彌呼呼諸事諸事み
 う律う律かふ○日々勤めを巡照と不役僧と夜不夜を勤め夜中木魚を敲き
 無常迅速一心念佛南無阿彌陀佛と唱寺中夜巡と一更と母み存堂ありびみ
 禪堂み掛たる更版とふ板を叩き此板み書りふ文を高智み讀諸寮み觸る
 五更の更版を叩けば司鐘司鼓と不役僧鐘樓鼓樓み登り鐘を撞大鼓を打
 其内み殿司後僧佛之燈明を點し香花を供打掃潔淨き身止止半鐘を
 亦半鐘を聞くと首座以下寺中の僧徒らに奉堂み共集し誦經始ふ大衆の内より
 一人大木魚一人銅磬を鳴く奉若僧と小磬小鏡鼓を鼓成鳴し誦經の内
 住持提爐を持佛殿並み皇帝の龍牌及靈廟其外諸佛拈香一方丈一呼る
 明方み誦經終るとまの寮に入典座後僧齋堂の茶み飯柳と魚の形形搦
 多掛あり成叩き又雲版と不物成叩けば住持成始ふ首座以下僧との呼り

僧徒

寮の僧引磬を打齋堂に集り位に経を誦す或は吃し居る等の
寮に入禅修学は悉くあり又托鉢も亦あり昼七時めら午堂に掛
くか半鐘を叩けべ朝のおく諸僧集りて誦経以夜一更めら鐘樓の大鐘
太鼓を叩静し 二更の更版を聞て座禅を止め休息し
佛前供物毎朝菜豆飯の初徳成供は朔日十五日の菓子野菜類四五粒
宛供ふ事定式あり是を上 供し 法會執行の時ハ多少を以てか
○ 昼夜寺院の鐘を朝七時昼七時夜五時此三度より外時刻を告ふ事あり
出世志僧の遊方僧とて諸國を巡り知識を尋ね其寺に掛錫し重り
座禅回答成修を此向修行者とて修行進そ悟り正道を聞け共頼る
知識を亦大師と侍り先師の事を受業師と唱ふ行者の向ち中切の有發そ
修行専あり此行者の内より多く名僧出たり



僧徒

十

齋堂前飯柳



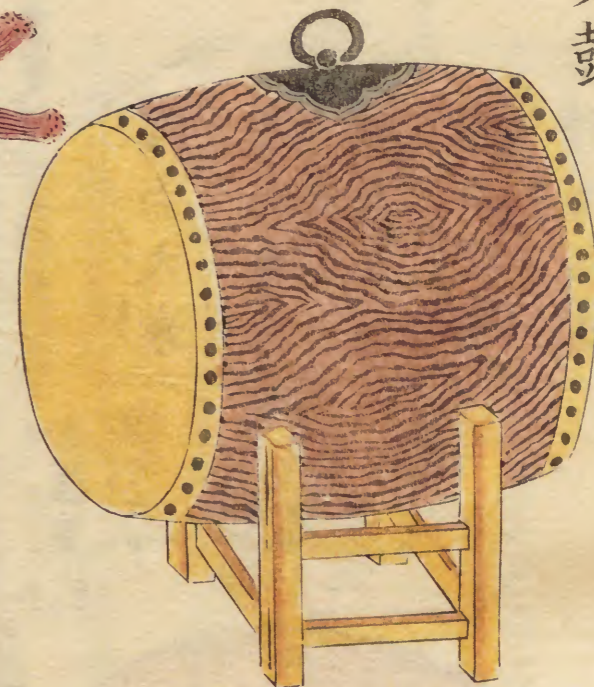
柄香爐



僧徒

十一

大鼓



鏡鉞



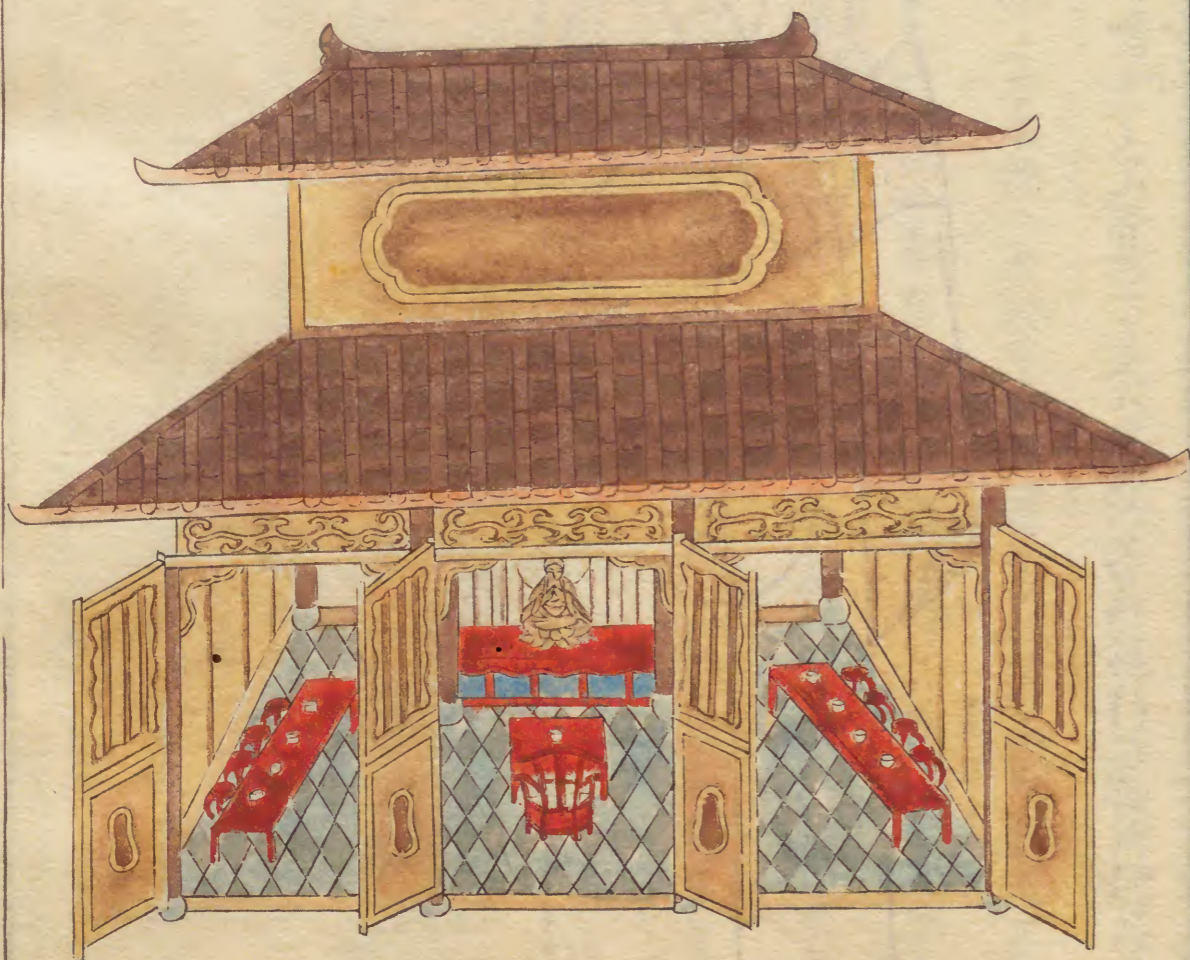
引磬



版雲



齋^ま吃^ま堂^が齋^ま



僧徒

十二

銅^{どう}
磬^{きん}



遊方僧



○托鉢み出さ僧の肉喝食とふ者あり是と兼錢其外施行の物成何品も限らば

取收り常寺の上まゝみ取認り差配さる役僧あり托鉢み出さ僧悉寺小急
用事あり又の寺み非常の事あり時ハ大鐘を撞けハ外出の僧談り寺席を
檀越より先祖の年回其外法會みく僧侶を招く其施主寺人等頼もあり

又ハ使を以て頼もあり供養日數二日の間誦經成ありあり五日七日の間施主
の求りみ同く焰口施餓鬼水懺等の佛事成執行を重立たる僧來旅の時
と主人門前まで出迎ひ互み徳儀を述廳堂（請）乞ふ成進め事して家廟（

案内）靈茶みく拈香誦經以法事事とハ布施やして一日み僧一人如平僧ハ
錢百文百五十文住持長老ハ銀十文住持送る足成懺資とふを施主の貧富に
同く等かゞば ○焰口施餓鬼執行ハ時の場度ハ下中新み佛座成設け

志以亡靈の神主牌を立燈成懸く錫五事を傍り

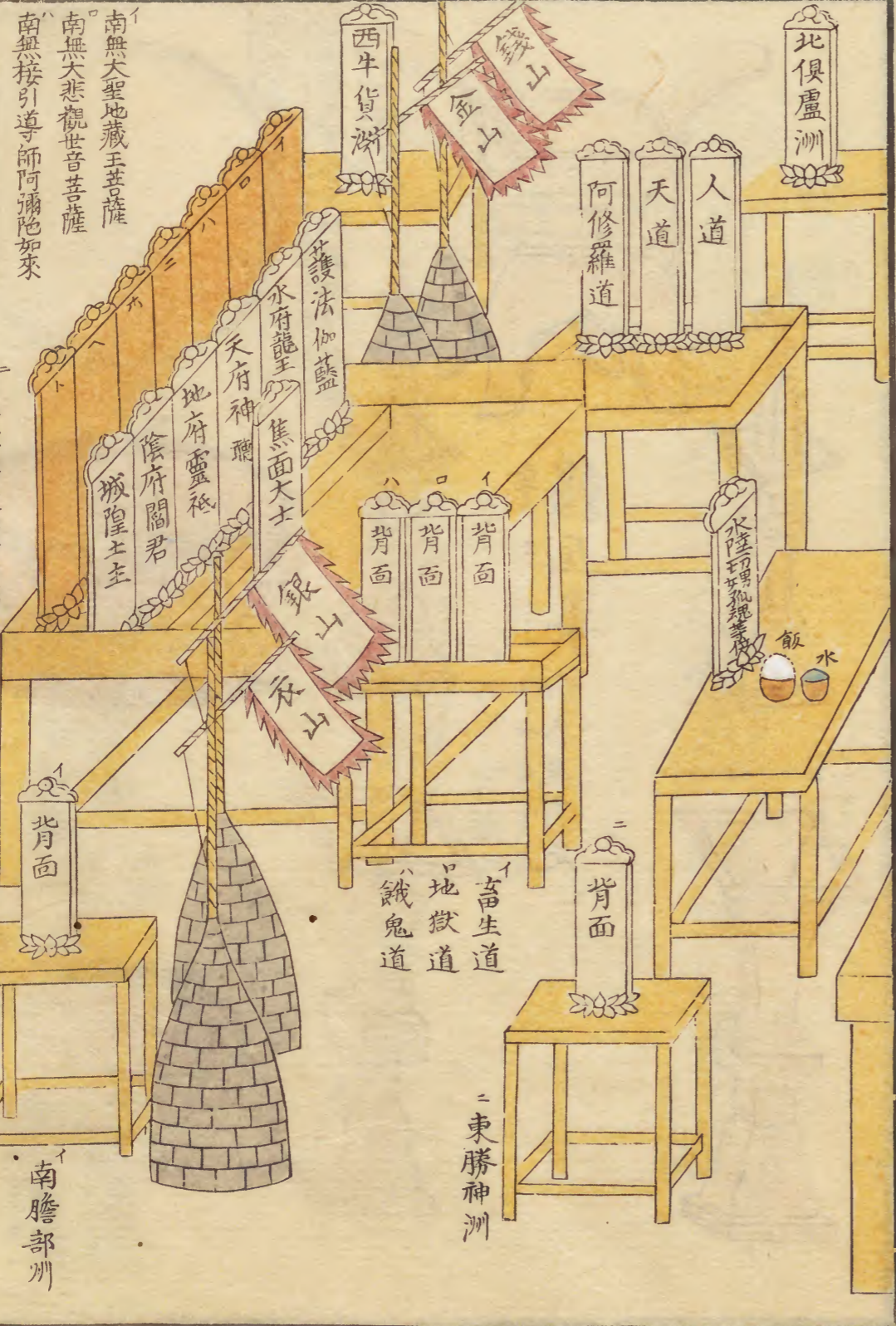
僧徒

毘盧壇排式之圖

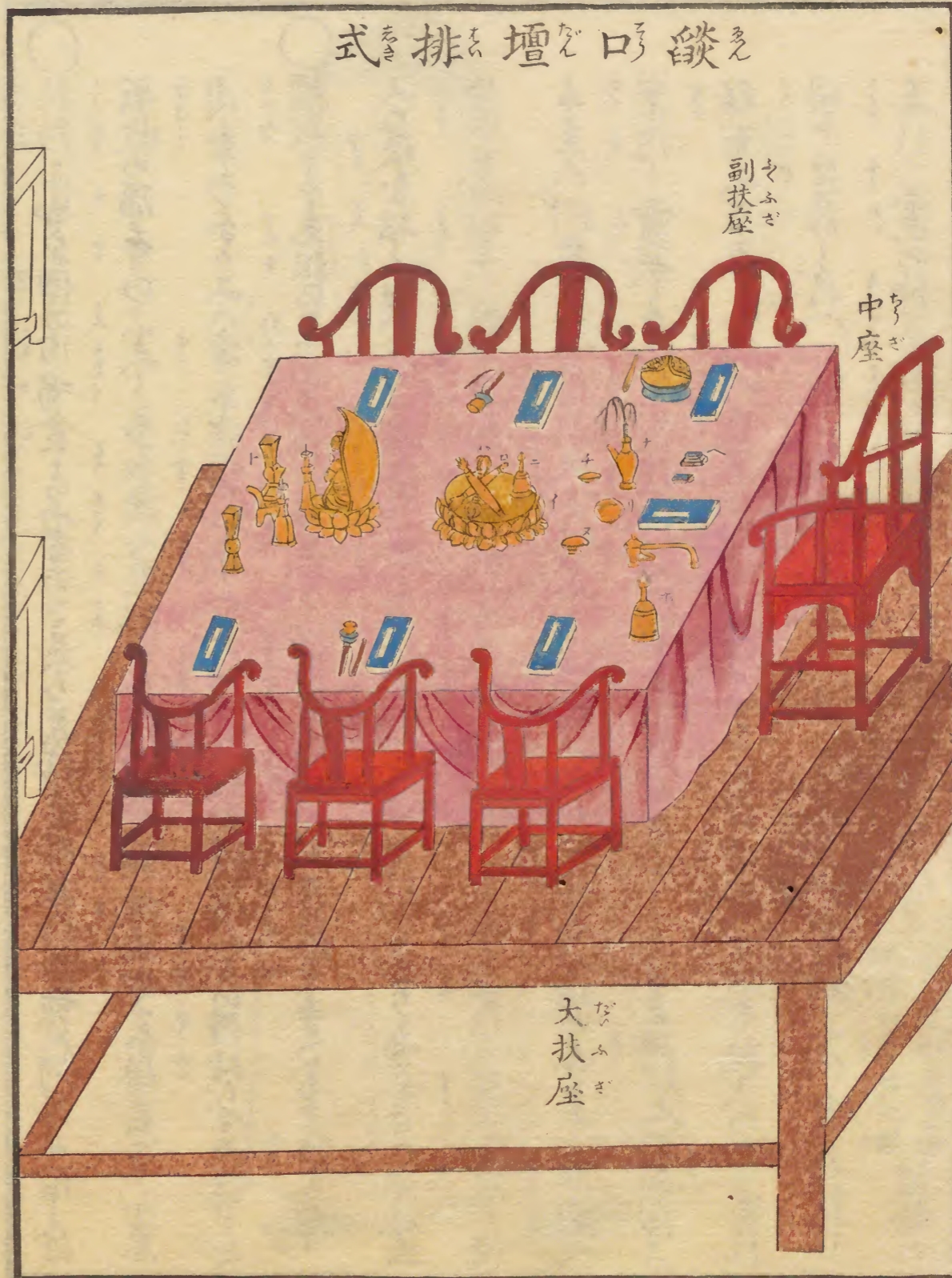
南無大聖地藏王菩薩
南無大悲觀世音菩薩
南無接引導師阿彌陀如來

南無娑婆教主釋迦牟尼佛
南無十方諸佛諸菩薩

南無啟教阿難陀尊者
南無引兔王菩薩



式排壇口燄



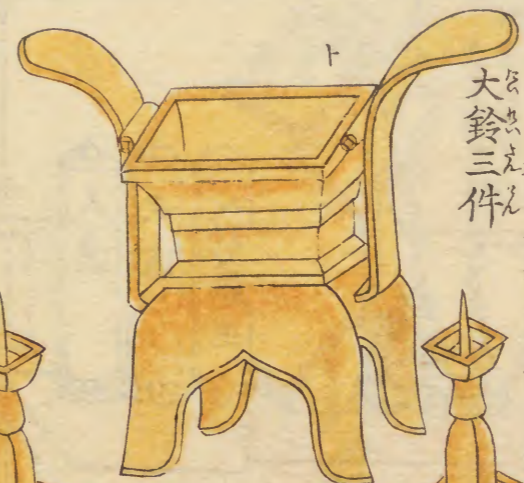
法鏡



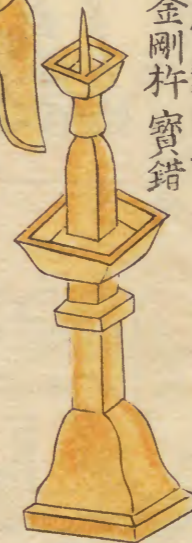
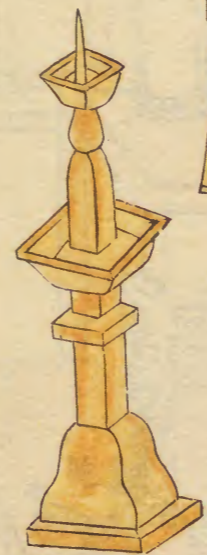
排式之時

鏡面朝天置臺上列金剛杵寶錯

大鈴三件



錫五事 和名五具足

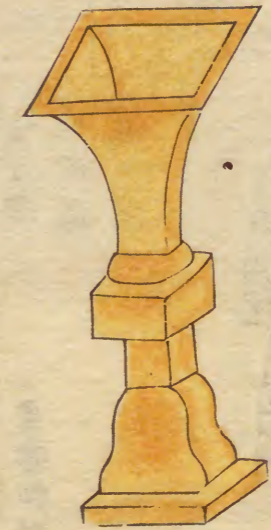
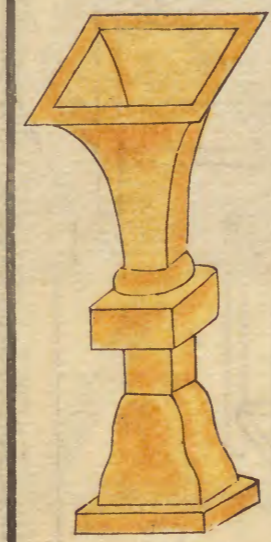


曼拏羅 法臺

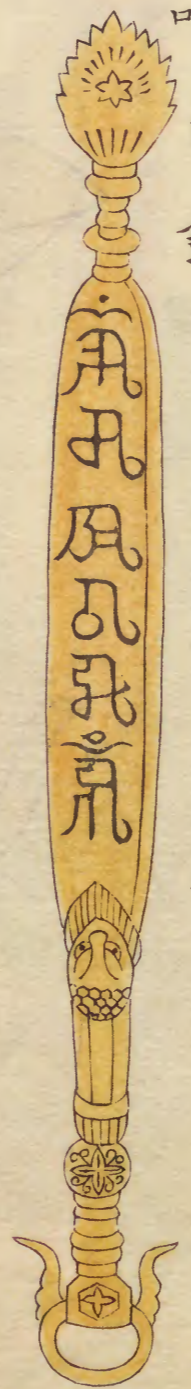
法尺



排式之時置中座經典之右



寶錯



片樣式

同

方樣式

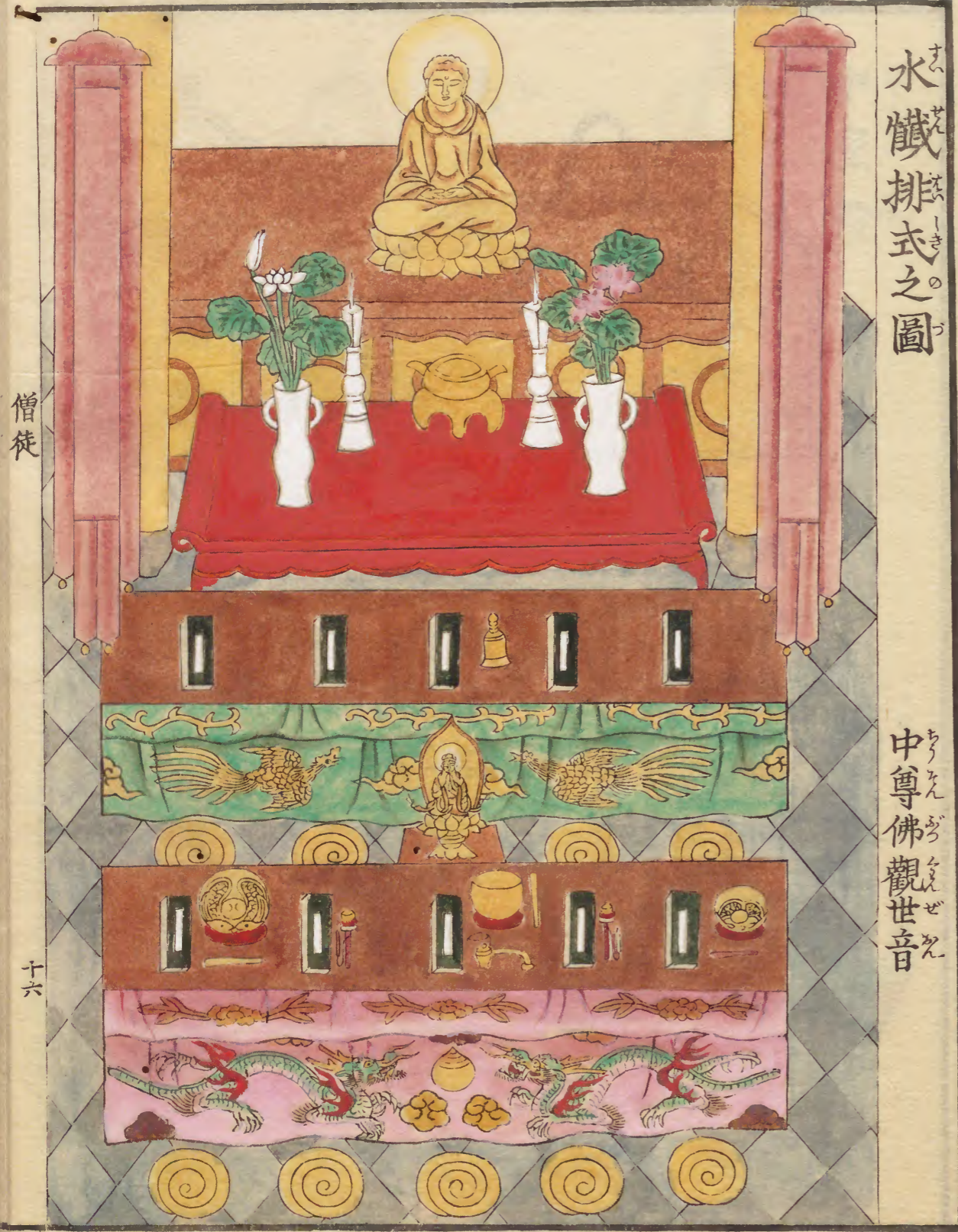


金剛降魔杵



僧徒

十五



水饑排式之圖

中尊佛觀世音

僧徒

十六



全

花米

ヌ

チ

乙 花米

乙 饅頭

ナ

甘露瓶

リ

洒水器

排式之時
挿柳枝



扶座鈴



中座鈴



五佛冠



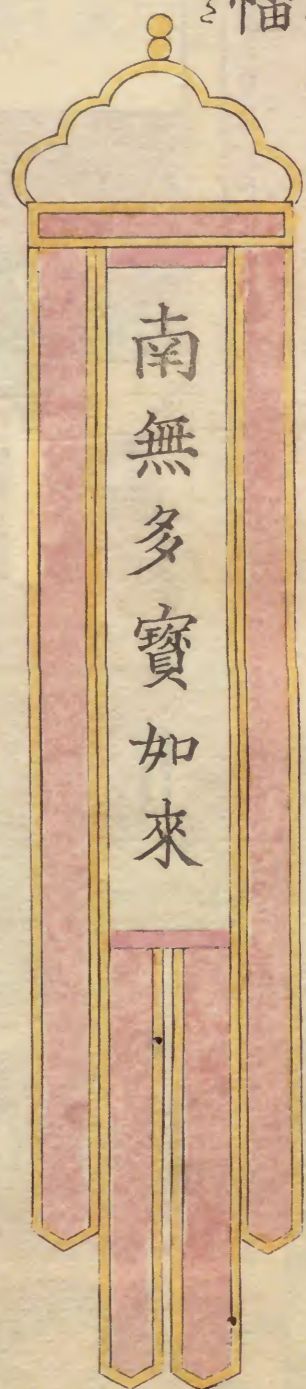
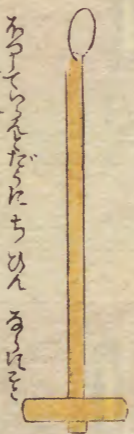
毘盧帽



客版

禪堂前客版

尊客欲入堂知賓鳴
版三下堂内開門



南無多寶如來



毘盧帽五佛冠合帶之圖

椅子

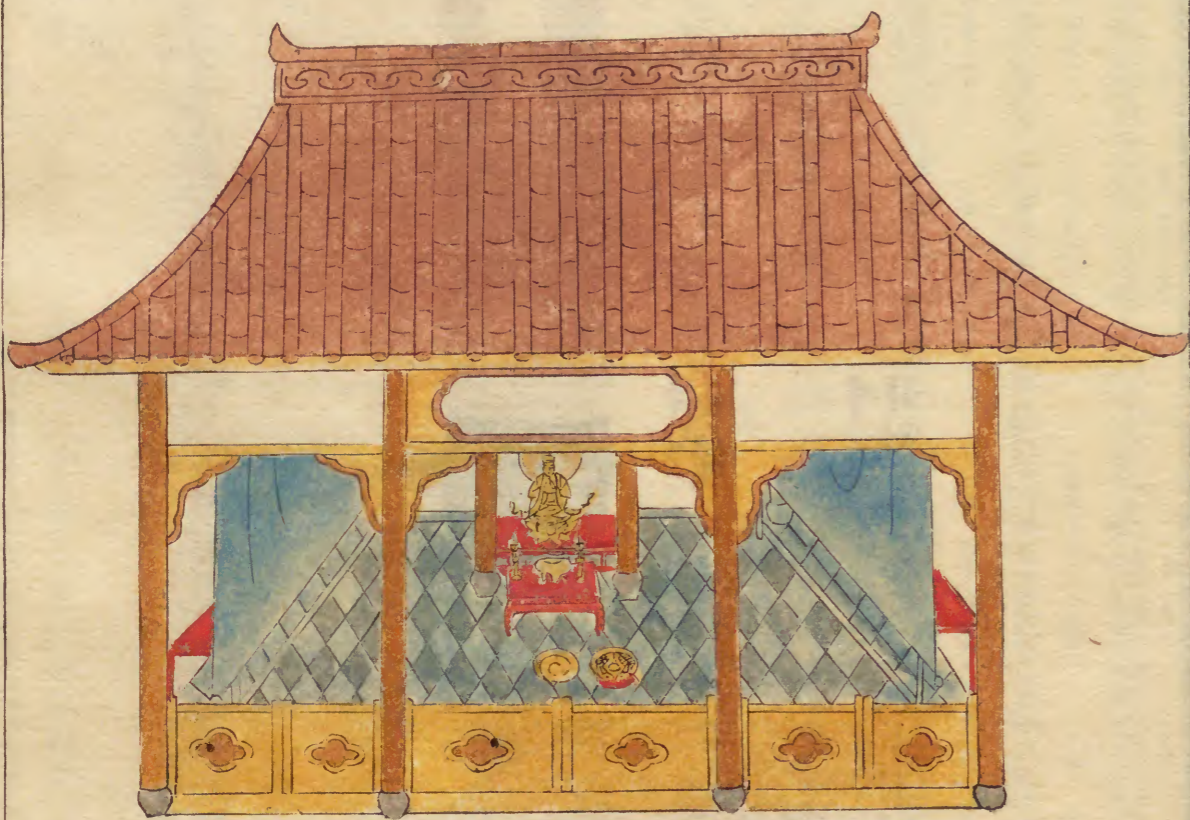


燭餅キリン 桂ケイ 桐トウ 菓枝カシヅメ 其外砂糖菓子時候の菓物カシヅメ 移シ 供ク 其茶カ 亦オ 方ハ 二間ニ 高カ 三間サン 高カ やの
 胡コ 批ヒ 落ラク 花生カシヅメ 焰エン 口コ 壇ダン を設セ け正マ 面メ 小コ 觀カン 音オン の儀ギ 成セイ 安アン 置チ 寶鏡ホウキョウ 等トウ の佛具ブツ を勝カチ 付ツ 上ウ 道ドウ 場バ へ
 香カウ 花カ 點テン 燈テウ 供物クツモノ 見ミ 合カ 供ク を定マ 式シキ の供物クツモノ ぬヌ 盆ハシ 饅頭マウトウ 七シチ 洒サ 水スイ 一イツ 盃サイ 此ココ 三サン 品ヒン を
 供ク 檀タン の向ムカ りリ 同ドウ くク 焰エン 口コ 壇ダン 行ユク の毘盧壇ヒロウダン を設セ け上ウ 壇ダン 小コ 七シチ 佛ブツ の名ナ 號ガウ を書カキ ける
 牌ハイ を傍ナド 阿ア 難ナン 引イン 意イ 十ジュウ 方ハウ 諸佛シュツブツ 下カ 壇ダン ぬヌ 面オモテ 然シテ 大ダイ 士シ 護ゴ 法ホウ 龍リウ 天テン の牌ハイ を立タテ 定マ 式シキ の
 香カウ 花カ を供ク 點テン 燈テウ 供物クツモノ 等トウ 茶チャ のおオ ぐグ を定マ 式シキ の供物クツモノ ぬヌ 昭シヨウ 示シ 又マタ 九ク 半ハン 洋ヤウ 行ユク 儀ギ 式シキ の
 茶チャ のおオ ぐグ 定マ 式シキ の供物クツモノ ぬヌ 大ダイ 尼ニ 子シ 有ア るル 茶チャ に飯イハ を堆オモテ 盛モリ 酒サケ 水スイ をぬヌ 供ク 之ノ 茶チャ 其ソノ 茶チャ
 茶チャ ぬヌ 高カ 三サン 間カン 廻マユ りリ 九ク 尺シツ 行ユク の竹タケ 籠カゴ を山ヤマ の形カタチ 拵カタメ 金カネ 銀ギン の竹タケ 箔ホク 紙シ 其ソノ 外ソト 錢ゼン 帋ハク
 眞マコト 衣イ 紙シ 等トウ ぬヌ 張テ たるル 成セイ 二ニ 重カサ 下カ 金カネ 銀ギン 山ヤマ 一イツ 錢ゼン 衣イ 山ヤマ と記オモシ したル 系ケイ 符フ 成セイ 立タテ 補ホ
 徑キョウ の僧ソウ 七シチ 人ニン 略リョク 十ジュウ 五ゴ 人ニン 焰エン 口コ 壇ダン ぬヌ 昇ノボ りリ 本ホン 位イ を金剛キョウカウ 上ウ 師シ とすル 一イツ 名ナ 成セイ 中チュウ 花ハナ 入イ 大ダイ
 僧徒
 十八

杖座右成副杖座と云は元々其杖座並に何止も椅子み坐し下はと大般若小聲
小鏡鏡等傍付あり成誦經み連く大衆の内一人めく鳴以中經の僧ハ毘盧帽
と云佛冠を戴き鈴成振或は印成供び其餘杖座の僧ハ本魚引鼓成打具府の亡
魂超度のため供へる云云成誦經中次すくく取捨酒水成ぬく饅頭み枕字を
書食臺み向く投捨尚又冥途ゆく金銀錢衣服を捨ふ意ゆく右金銀山鏡
衣山成燒捨ふ此法ち在家めくも至くく夜陰み打あふ九二回時經もかか
水懺とら同く佛成設け香花點燈供物等熅つみおれくを正式の供物
ふし前幅半同み長さ二回後の量成二行みま其云僧五之宛都合拾人の僧
夫は佛具成持何止も跪ん誦經あり此法ち省畧すは一日かも海又二三日
懺ふも熅つ口水懺とら年忌法會み限く在家内安全病氣平息等の祈
禱みも執り何止も施主の云は任せく自宅めくも執行ふ其時法具諸道

具寺より持越其供養み應て僧の多少ありを其時親類朋友をも招き
僧侶打込齋非時等振舞事あり法事平止其日數みあふは勞金少く
僧一人前二三十日以下僧の高下施主の身分み應て送ふ事等ゆくは若
宅狭きや或は故障等めく寺に佛事を頼む時と前度米料を納むに施主
の求めみ應て供ふ其時と寺めく齋非時の用意をれ施主ありは
主の親類朋友み施齋此れと施主の方より男女ともみあふは婦女の間
別間み志門の附あり奴婢等終はして僧侶と到來は挨拶禮儀たれを
此間み入る○在家の位牌成寺院み安んずる事ありは素より位牌
堂とせり格別寺みあふ功あふ檀越ハ別み位牌成女並にあつ
香花を供ふ事あり○在家喪中の時ハ日誦誦經頼むもあり又七日毎
み頼むもあり何止も施主の求めみ應てを喪葬の時と僧七八人もあり

禪堂之式



僧徒

二十

極の先母三平み誦みくましく久多か幡を持二行めあぐび墓所近は
 誦誦經はを定式みあぐび檀越を頼されば行事あり

○七月盆めら寺院めあぐび施餓鬼執行すか所もあり其寺の古格めく執
 行せざか所もあり ○十二月八日を臘八といふ朔日とて八日の曉まで宣夜一山の僧

禪堂めあぐび座禪めあぐび八日め菓茶の粥を炊
 何れも吃し懇意の檀越も送ふ事あり

○御祈願所か差極め寺院か御祈禱の旨の勅諭めく何れに
 何寺中付らるゝあはれ其寺(頼遺)又ら官前の見ゆひを以て修行

らとふ事もあり其寺めあぐび等か寺院めく護摩神闍守札
 等を天子諸官前等へ獻すか事か奇術と道家めく専ら行へも
 僧家めく事あり

樂器がくき



○

官人寺人素詣の節ち常以達一わふ以具時刻の官位の高下による位持並に
 後僧山門をも出迎もわつた夏素詣あしは禪堂かそふ客版とふ臥成叩けば法堂
 の門代罷れば法僧残らばあふ小官あしは及侍中出迎ふ大夏は時と鐘樓の鐘成
 撞を敲を打あふいと樂成奏して佛殿請ひ佛拜并そ加客役侍の業内して
 並に方丈一併ハ椅子を設け座成請ひ位持對座し知客側母侍亦值座役侍の各
 茶菓子其外時候の菓物等差出はたしハ小寒暖の挨拶あつて御食應あふむ
 酒烟等々持あしは出さば歸ゆえのどく山門まで招かふ此れは客の家来ハ
 香金とて多少ぬかすも金銀成るはけり
 庶人素詣の時の先佛殿み禮拜し並に歸ふもわつ又と客殿ぬくたけり
 休息さしは客め應し值座するも茶をうと出れもわつ或は菓子菓物等ぬき
 あり其品等かへは若位持母用向あふ又訪ひのた見之ふれ節と値

僧徒

座(有次成相)方丈(小宗)少(面)後(以)庶(人)多(り)大(戸)の(人)を(監)寺(知)客(等)
 の(送)迎(此)禮(あり)貴(賤)高(下)拘(り)客(殿)に(至)人(を)銀(錢)の(差)列(り)見(念)
 香(金)を(乞)乞(あり)又(ら)線(香)蠟(燭)等(送)婦(女)等(信)の(時)も(佛)拜(の)も(中)ま
 亦(師)も(あり)又(暫)く(客)殿(に)休(息)す(る)も(あり)且(つ)て(は)僧(侶)一(人)も(ま)た(は)む
 婦(女)の(休)息(可)し(列)せ(敷)け(あ)る(差)系(は)く(も)と(れ)る(十二)三(歳)の(小)沙(彌)
 持(安)子(都)々(寺)院(に)婦(女)徠(徊)す(る)事(望)く(官)制(あり)系(緒)近(の)事(苦)し(は)は
 后(宮)の(官)女(等)寺(系)緒(の)儀(を)天(子)御(系)指(さ)し(づ)附(隨)ひ(系)緒(す)止(せ)も
 官(女)む(ら)り(系)緒(す)事(事)あり
 年(始)と(も)官(女)也(也)事(事)あり(檀)家(に)任(持)自(身)年(禮)も(事)あり(入)る
 役(僧)の(内)も(某)山(某)禪(寺)納(某)叩(く)書(さ)し(帖)成(持)く(系)事(も)外(り)
 札(守)等(た)り(事)事(り)元(旦)と(二)日(と)く(在)家(も)事(あり)在(家)態(意)の(方)の

常(み)徠(來)談(話)す(る)事(在)家(の)者(に)異(ふ)事(事)あり(檀)家(に)檀(家)
 野(菜)菓(物)稻(漬)砂(糖)漬(等)た(り)事(も)あり
 卒(山)組(合)等(の)事(事)あり(御)朱(印)也(也)事(事)あり(且)後(任)成(定)む(事)あり(一)山
 の(役)僧(評)議(して)任(め)堪(ふ)事(傍)を(選)む(其)比(の)知(縣)何(ん)知(縣)一(存)め(く
 後(任)中(後)事(事)任(め)堪(ふ)事(傍)を(選)む(其)比(の)知(縣)何(ん)知(縣)一(存)め(く
 名(氏)二(人)任(め)書(出)官(一)中(出)官(一)の(指)揮(も)あり(た)り(有)役(傍)中
 事(願)也(也)官(女)も(評)議(あり)役(僧)中(も)選(出)し(る)事(名)宗(の)内(り)又(は)外(り)官
 一(羽)の(存)也(也)其(有)役(傍)中(達)一(雙)方(一)更(の上)後(任)成(定)む(小)寺(の)官(女)評
 議(も)及(ぶ)也(也)○(後)任(進)山(の)時(の)吉(日)代(擲)入(寺)以(其)時(を)首(座)以(下)の(役)傍
 山(門)外(も)出(迎)ふ(此)時(格)式(の)法(治)あり(互)も(札)拜(半)等(寺)内(入)且(鐘)撞(太
 鼓)を(敲)き(知)客(も)諸(堂)案(内)して(指)香(一)式(法)漸(く)方(丈)入(暫)く(休)息(す)

僧徒

廿二

まゝと奉堂の若ぬ設けわす壇に登り柱杖を安掛子を持倚子みかた
侍者兩人尤右女従(衆傍の拜を受ふ此れ一山の傍悉く如く法法成以
種々の事成尋問ふまゝ教示あり其香成成て禮拜の規式等々官府(福也等共
後檀越も自身兼り入寺被露ありむ此布扇子杖の物おふ事あり
僧も妻等々禁制ありむ應付僧とて妻等々ありむされとも肉食の傍あり
市中女使兵(在家れ法事誦經等類も怠り執り以む應付傍とら
名住古よりの中は之みくつ好ぶ就とら事志ありぬれ
律宗の甚稀あり天台宗の天台山一山限め外あり律宗の重み新
撰成修し綿服を着し麻色の木綿加衣法衣着し鉄袴を持食事の傍
鉄袴も飯菜等々入著成因比じみく吃す天台宗の傍の法式仍事等禪宗と同
僧道兩持の寺院あり寺院の僧侶むらりあり

○ 律宗の甚稀あり天台宗の天台山一山限め外あり律宗の重み新撰成修し綿服を着し麻色の木綿加衣法衣着し鉄袴を持食事の傍鉄袴も飯菜等々入著成因比じみく吃す天台宗の傍の法式仍事等禪宗と同僧道兩持の寺院あり寺院の僧侶むらりあり

○ 名住古よりの中は之みくつ好ぶ就とら事志ありぬれ

○ 律宗の甚稀あり天台宗の天台山一山限め外あり律宗の重み新撰成修し綿服を着し麻色の木綿加衣法衣着し鉄袴を持食事の傍鉄袴も飯菜等々入著成因比じみく吃す天台宗の傍の法式仍事等禪宗と同僧道兩持の寺院あり寺院の僧侶むらりあり

○ 名住古よりの中は之みくつ好ぶ就とら事志ありぬれ

○ 律宗の甚稀あり天台宗の天台山一山限め外あり律宗の重み新撰成修し綿服を着し麻色の木綿加衣法衣着し鉄袴を持食事の傍鉄袴も飯菜等々入著成因比じみく吃す天台宗の傍の法式仍事等禪宗と同僧道兩持の寺院あり寺院の僧侶むらりあり

○ 名住古よりの中は之みくつ好ぶ就とら事志ありぬれ

僧徒

道士

道冠



○護符等の事ハ僧尼等ノ執リセバ道家もク死ねば道家ノ事尊ハ極ク三清上

帝テイを祀ス三清上帝ハ中央玉清元始天尊也道家も郊々寺と曰ル也一山ありて

市中に居位イニをイニあり社檀越等此事ハ僧尼等知ル事也道士も茲ココに

廻マヒて深山シヤンにマヒ入マヒ行マヒ法マヒ修マヒ行マヒをマヒ事マヒありマヒ俗マヒ僧マヒ有マヒハマヒ三マヒ清マヒをマヒ裁マヒ杖マヒをマヒ突マヒ事マヒあり

○且タリ那ニとタリ字タリ事タリ住タリ古タリとタリわタリかタリよタリふタリ事タリもタリ當タリ時タリめタリるタリ檀タリ越タリとタリのタリ呼タリぶ

○江湖コウありコウハコウみコウ緒コウ夏コウ此コウ事コウハコウ異コウ俗コウ節コウとコウもコウ在コウ家コウのコウ知コウふコウ事コウありコウ也

清俗紀聞卷之十三畢

清俗紀聞跋

向者余之在崎陽也聽政之暇使官
屬近藤守重林貞裕問清高其國之
俗習輒隨筆焉又隨圖焉終成一書其
起稿之始余偶罹疾而百事皆廢及
愈瓜期已迫故束稅稿齋還江戶爾後

劇職不暇翻閱因命臣津田永郁校
訂分為十三卷示諸林祭酒請序其端
且請名書祭酒名以清倍紀聞且序而
還之或勸上本公諸同好遂命剞劂
不日而刻成矣澤正甫中伯毅亦序其
端嗚呼雖編輯之名在余彼官屬

等力實為多矣豈可虛其功哉因
備記与此役者姓名于卷末云寬政
己未冬十月中川忠英跋

赤峰脇田順書



大通事

高尾維貞

彭城斐

清河璧

平野祐英

彭城明矩

神代文鳳

穎川良友

彭城昌尊

吉島潜

小通事

畫工

神代干貴
陽忠廉
平井惟德
穎川惟賢
中山保高
彭城以貞
游竜賢
石崎融思
安田素教

清國蘇州

孟世燾

高工

蔣恆

顧鎮

湖州 費肇陽

杭州 王恩溥

周恆祥

嘉興 任瑞

